

2020年度三重短期大学年報

三重短期大学内部質保証推進委員会

目 次

2020年度三重短期大学年報刊行にあたって	1
2020年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設授業科目における専任担当率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科学研究費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31

7. 社会活動

表21	公開講座の開設状況	32
-----	-----------	----

8. 大学運営

1) 施設・設備

表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34

2) 図書館

表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37

3) 財務

表27	歳入・歳出決算表	38
-----	----------	----

4) 管理運営

表28	教授会開催状況	39
-----	---------	----

9. 専任教員の活動実績

		42
--	--	----

2020年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年毎に実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。2020年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大が本学の学内運営に少なからず影響を及ぼしましたが、その状況下においても、中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究・教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。

(原則11月～12月に公開)

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきますようお願いいたします。

2021年12月

三重短期大学内部質保証推進委員会

2020年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。

2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。なお、2021年度から生活科学学科食物栄養学専攻は、食物栄養学科食物栄養学専攻に改編される。
- ・専任教員は、助教以上が法経科14名、生活科学科16名の計30名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均24名である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が5名、45歳以下が13名、55歳以下が7名、65歳以下が5名である。
- ・教員の職階構成は、教授10名、准教授11名、講師6名、助教3名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が15名、非常勤職員等が13名となっており、常勤職員の人数は昨年度と変わらない。

3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、生活科学専攻では48%とやや低いものの、法経科第1部が54%、法経科第2部が58%、食物栄養学専攻が68%あり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、法経科第1部・第2部が6%、食物栄養学専攻が9%増加している。
- ・在籍学生数は、法経科第1部、生活科学専攻ではいずれも定員を充足しており、食物栄養学専攻もほぼ充足している。法経科第2部は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、90.5%であり、昨年度(89.5%)とほぼ同じ割合である。
- ・留年率は、6.6%であり、昨年度(3.8%)より約3%増加している。
- ・退学・休学状況では、退学率は2.6%であり、昨年度(3.5%)より減少している。また、休学者数は5名おり昨年度より1名減少している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得率が昨年度より約6%減少した。管理栄養士免許取得者は、昨年度の7名から10名へと増加している。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、昨年度に比べて法経科第2部は変わらないものの、法経科第1部、食物栄養学専攻、生活科学専攻は減少している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第1部は昨年度より9名減少しているが、法経科第2部、食物栄養学専攻、生活科学専攻は増加している。

4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第1部と生活科学専攻は、100%を越えているが、食物栄養学専攻と法経科第2部は100%未満である。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると昨年度の1.85倍から1.49倍へと減少しており、過去5年間で最も低い割合となっている。志願者数は、すべての学科・専攻で昨年度より減少したが、食物栄養学専攻は、2019年度入試から減少が続いている。
- ・入試種別の入学者の構成は、一般選抜が37.4%（昨年度33.4%）、学校推薦型選抜が40.9%（34.0%）、共通テスト利用選抜が16.6%（26.3%）、社会人特別選抜が2.6%（4.0%）、関連分野特別選抜が2.6%（2.3%）となっている。学校推薦型選抜が昨年度より約7%増加したのに対し、共通テスト利用選抜は約10%減少している。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室は、臨床心理士によりカウンセリングが行われている。利用状況では、年間開室日数は計46日あり、昨年度とほぼ同じであったが、相談件数は109件あり、昨年度より27件も増加している。利用する時間帯は、16:30～19:30が最も多い（89件）。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生731名の48.9%（昨年度44.9%）に当たる413名が受給しており、昨年度より81名増加している。受給学生はここ数年増加傾向にある。一人当たりの平均受給額は年間約43万円であり、すべて日本学生支援機構奨学金の貸与・給付である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、修学支援新制度によるものは、2020年度前・後期合計で257件の申請に対して、全額免除156件、2/3免除53件、1/3免除32件、合計241件が認定されている。また、大学独自減免制度によるものは、前・後期合計で7件の申請があり、全額免除4件が認定された。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,792万円である。法経科は昨年度より約18万円減少しているが、生活科学科は約294万円増加している。増加分は、主に科学研究費補助金と民間の研究助成金によるものである。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費（経常研究費）は法経科で35.2万円、生活科学科で30.2万円であり、昨年度より減少している。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分（学内経常研究費）の割合は、法経科が63%、生活科学科が21%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2020年度は3件申請があり、1件採択された（採択率33%）。
- ・教員研究室の個室率は、法経科が100%であるのに対し、生活科学科は94%である。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で22.4㎡、生活科学科で25.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の一週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均9.6授業時間であり、生活科学科は平均10.5授業時間である。

7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座は、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講義がある。2020年度は、オープンカレッジと地域連携講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から中止となり、出前講座のみ3講座が開講された。1講座当たりの平均受講者数は19名であった。

8. 大学運営

- ・校地・校舎、講義室・演習室等の面積の増減はない。講義室の学生1人当たりの面積は1.54㎡であり、昨年度とほぼ同じである。
- ・図書館の収蔵冊数は102,240冊で、2020年度中に1,013冊増加した。また、図書館の入館者数は9,152名、貸出者数は2,229名、貸出冊数は4,327冊である。入館者数は昨年度より半減しており、貸出冊数は約2,000冊減少している。
- ・大学財政についてみると、歳入合計は5億5,254万円で、そのうち授業料・入学金が2億4,586万円、一般財源が2億8,654万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億3,113万円、大学管理運営事業費9,422万円、教育研究関係事業費8,982万円、施設維持補修事業費2,314万円、図書館管理運営事業費1,277万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて21回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究・教育・社会的活動の状況を掲載した。

1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

(1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

1) 教育研究の理念

- ・真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

- ・優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

(2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

(3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成
文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成
総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成
グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

(4) 学科・専攻の目的

法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

生活科学科

生活者の視点から生活環境の改善や健康、福祉に対する深い造詣をもち、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(5) 学科・専攻の教育目標

法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

生活科学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻生活福祉・心理コース

- ・社会福祉学や心理学を中心に「理論」と「実践」を学び、現場で生きる知識と技術を備えた人材を育成する。
- ・学生の持つ個性や能力を最大限に引き出し、豊かな人間関係を築くことができる人材を育成する。
- ・人々や地域が抱える様々な課題を広い視野で総合的に考察・分析した上で、地域における生活者の一員として主体的に行動できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻居住環境コース

- ・住まいやまちの環境を快適にする力を育成する。
- ・環境問題を認識し、環境共生のために住まいとまちの持ち味を生かす力を育成する。
- ・住まい・まちと福祉をつなぐ力を育成する。
- ・住まいとまちをつくる専門的な力を育成する。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<1969年4月> 第2部<1952年4月>	法律コース<2007年4月> 経商コース<2007年4月>
	生活科学科	食物栄養学専攻<1969年4月> 生活科学専攻<1991年4月>	生活福祉・心理コース<2007年4月> 居住環境コース<2007年4月>

表2 全学の教員組織 (2020年度)

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	4	6	4		14		3	29.07	2	3	3		8	45
	第2部							7							
生活科学科	食物栄養学専攻	2	1	2	3	8		4	12.25			1		1	40
	生活科学専攻	4	4			8		4	28.25	4	2			6	58
合 計		10	11	6	3	30		18		6	5	4		15	174
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数								5							

- [注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。
 3 2020年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2020年度)

法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
教授	村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学大学院 文学研究科 文学博士	
						英語講読	2.0	2.0					2.0	2.0		
						英語講読(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0		
						計	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0		
教授	楠本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科 法律 コース	刑法	4.0							4.0	0.0	中央大学大学院 法学研究科 法学修士
						刑法(法2)	4.0							4.0	0.0	
						刑事政策		2.0						0.0	2.0	
						農林体験セミナー	2.0							2.0	0.0	
						法学入門	0.3							0.3	0.0	
						法学基礎演習				2.0				0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
					計	10.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	14.3	8.0			
教授	石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0						0.0	4.0	一橋大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						金融論(法2)	4.0							4.0	0.0	
						国際経済論	2.0							2.0	0.0	
						経済学入門	0.3							0.3	0.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
					計	6.3	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.3	8.0			
教授	藤枝 律子	女	2010/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	行政法	4.0							4.0	0.0	名古屋大学大学院 法学研究科 修士(法学)
						行政法(法2)	4.0							4.0	0.0	
						地方自治法		2.0						0.0	2.0	
						法学入門	0.3							0.3	0.0	
						法学基礎演習				2.0				0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
					計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0			
准教授	田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	会計学	4.0							4.0	0.0	明治大学大学院 商学研究科 博士(商学)
						会計学(法2)	4.0							4.0	0.0	
						税務会計論	2.0							2.0	0.0	
						経済学入門	0.3							0.3	0.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
					計	10.3	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	12.3	2.0			
准教授	大畑 智史	男	2016/4/1	2016/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0						0.0	4.0	東北大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						財政学(法2)		4.0						0.0	4.0	
						地方財政論	2.0							2.0	0.0	
						地方財政論(法2)	2.0							2.0	0.0	
						経済学入門	0.3							0.3	0.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0							
					計	4.3	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.3	12.0			
准教授	今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0							2.0	0.0	関西大学大学院 文学研究科 博士(文学)
						文学Ⅰ(法2)	2.0							2.0	0.0	
						文学Ⅱ		2.0						0.0	2.0	
						文学Ⅱ(法2)		2.0						0.0	2.0	
						独語Ⅰ	2.0	2.0						2.0	2.0	
						独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0						2.0	2.0	
						独語Ⅱ	2.0	2.0						2.0	2.0	
					計	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0			
准教授	田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0							4.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 博士(経済学)
						経済原論(法2)	4.0							4.0	0.0	
						経済学史		2.0						0.0	2.0	
						統計学(法2)		2.0						0.0	2.0	
						経済学入門	0.5							0.5	0.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0							
					計	8.5	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.5	8.0			
准教授	浅野 和也	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 経商 コース	経営学	4.0							4.0	0.0	中京大学大学院 経営学研究科 博士(経営学)
						経営学(法2)		4.0						0.0	4.0	
						人的資源管理論	2.0							2.0	0.0	
						人的資源管理論(法2)		2.0						0.0	2.0	
						経済学入門	0.3							0.3	0.0	
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0							
					計	6.3	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.3	10.0			

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数									
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計		
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期							
准教授	川上 哲	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 法律 コース	行政学	4.0						4.0	0.0	一橋大学大学院 社会学研究科 修士(社会学)
						行政学(法2)		4.0					0.0	4.0	
						地方政治論		4.0					0.0	4.0	
						法学入門	0.3						0.3	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
計	4.3	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.3	12.0							
講師	鷺尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科 経商 コース	マーケティング論	4.0						4.0	0.0	高千穂大学大学院 経営学研究科 博士(経営学)
						マーケティング論(法2)		4.0					0.0	4.0	
						日本経済論		2.0					0.0	2.0	
						日本経済論(法2)	2.0						2.0	0.0	
						経済学入門	0.3						0.3	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	6.3	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.3	10.0							
講師	川上 生馬	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	民法I	4.0						4.0	0.0	関西学院大学 大学院法学研究科 博士(法学)
						民法I(法2)	4.0						4.0	0.0	
						民法II		2.0					0.0	2.0	
						法学入門	0.3						0.3	0.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0							
講師	鎌塚 有貴	女	2018/10/1	2018/10/1	法経科 法律 コース	日本国憲法・日本国憲法I	2.0						2.0	0.0	明治大学大学院 法学研究科 修士(法学)
						日本国憲法・日本国憲法II		2.0					0.0	2.0	
						日本国憲法(法2)		4.0					0.0	4.0	
						憲法訴訟論		2.0					0.0	2.0	
						法学入門	0.5						0.5	0.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	2.5	8.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.5	14.0							
講師	西川 昇吾	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 経商 コース	労働法		4.0					0.0	4.0	熊本大学大学院 社会文化科学研究科 博士(法学)
						労働法(法2)		4.0					0.0	4.0	
						社会保障法	2.0						2.0	0.0	
						法学入門	0.3						0.3	0.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	2.3	8.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.3	14.0							

生活科学科

職名	氏名	性別	就年月日	職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号
							毎週授業時間数										
							科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期									
教授	南有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0							2.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						環境論(法2)	2.0							2.0	0.0		
						生活経営	2.0							2.0	0.0		
						環境共生論	2.0							2.0	0.0		
						環境政策論		2.0						0.0	2.0		
						環境政策論(法2)		2.0						0.0	2.0		
						地域政策論(法2)		2.0						0.0	2.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	8.1	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0		12.1	10.0								
教授	長友薫	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0							2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士	
						社会福祉論Ⅰ・社会福祉論Ⅱ	2.0							2.0	0.0		
						社会福祉論Ⅱ		2.0						0.0	2.0		
						地域福祉論Ⅱ		2.0						0.0	2.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅱ	2.0							2.0	0.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅰ						1.0		0.0	1.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅱ					1.0			1.0	0.0		
						福祉心理基礎演習				2.0				0.0	2.0		
						福祉心理演習				2.0	2.0			2.0	2.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0		9.1	9.0								
教授	木下誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住福祉論		2.0						0.0	2.0	三重大学大学院 工学研究科 博士(工学)	
						居住計画論	2.0							2.0	0.0		
						建築製図基礎	4.0							4.0	0.0		
						住生活論		2.0						0.0	2.0		
						住生活設計Ⅰ						4.0		0.0	4.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
						計	6.1	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0		10.1	12.0		
						教授	橋本博行	男	2018/4/1	2018/4/1	食物栄養学専攻	食品学	2.0				
食品学実験					3.0									3.0	0.0		
食品衛生学Ⅰ	2.0													2.0	0.0		
食品衛生学Ⅱ		2.0												0.0	2.0		
食品の機能		2.0												0.0	2.0		
食品衛生学実験												3.0		0.0	3.0		
管理栄養特殊講義		0.2												0.0	0.2		
特別演習			4.0	4.0										4.0	4.0		
生活科学概論	0.5													0.5	0.0		
計	4.5	4.2	4.0	4.0	3.0							3.0		11.5	11.2		
教授	小野寺一成	男	2014/4/1	2019/4/1	居住環境コース	都市計画論		2.0						0.0	2.0	東洋大学大学院 工学研究科 博士(国際地域学)	
						地域政策論	2.0							2.0	0.0		
						住環境計画	2.0							2.0	0.0		
						地域環境学		2.0						0.0	2.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0		
						まちづくり設計Ⅰ					2.0			2.0	0.0		
						まちづくり設計Ⅱ						2.0		0.0	2.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
						計	4.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0		10.1	10.0		
教授	阿部雅里	女	2006/4/1	2020/4/1	食物栄養学専攻	栄養教育論Ⅰ	2.0							2.0	0.0	福山女学園大学 大学院生活科学研究科 博士(人間生活科学)	
						栄養教育論実習Ⅰ					3.0			3.0	0.0		
						公衆栄養学		2.0						0.0	2.0		
						栄養教育論Ⅱ		2.0						0.0	2.0		
						栄養教育論実習Ⅱ						3.0		0.0	3.0		
						管理栄養特殊講義		0.6						0.0	0.6		
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
						計	2.1	4.6	4.0	4.0	3.0	3.0		9.1	11.6		
准教授	北村香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉発達史	2.0							2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士	
						障害者福祉論	2.0							2.0	0.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅰ		3.0						0.0	3.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅰ				4.0				0.0	4.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅱ					1.0			0.0	1.0		
						福祉心理基礎演習				2.0				1.0	0.0		
						福祉心理演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
						計	4.1	3.0	2.0	8.0	1.0	1.0		7.1	12.0		
准教授	武田誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	医療福祉論	2.0							2.0	0.0	九州保健福祉大学 大学院社会学研究科 修士(社会福祉学) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 医科学専攻 修士(医科学)	
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0						0.0	4.0		
						社会福祉援助技術総論	4.0							4.0	0.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅰ						1.0		0.0	1.0		
						社会福祉援助技術演習Ⅱ							1.0	1.0	0.0		
						福祉心理基礎演習				2.0				0.0	2.0		
						福祉心理演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0		9.1	9.0								

職名	氏名	性別	就任年月日	現職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数											
						科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
准教授	アノノ アイ 亜衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄養学専攻	給食計画実務論		2.0							0.0	2.0	青森県立保健大学大学院健康科学研究科博士(健康科学)
						調理学	2.0								2.0	0.0	
						給食計画実務論実習Ⅰ						3.0			3.0	0.0	
						給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0		1.0	1.0		
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0		1.0	1.0		
						調理学実習Ⅱ							3.0		0.0	3.0	
						特別演習			4.0	4.0					4.0	4.0	
						管理栄養特殊講義		0.2							0.0	0.2	
						生活科学概論	0.1								0.1	0.0	
						計	2.1	2.2	4.0	4.0	5.0	5.0			11.1	11.2	
准教授	シノグ コウイチロウ 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0								2.0	0.0	名古屋大学大学院情報科学研究科博士(情報科学)
						情報と科学		2.0							0.0	2.0	
						情報と科学(法2)		2.0							0.0	2.0	
						数理科学	2.0								2.0	0.0	
						情報処理実習Ⅱ						2.0		2.0	0.0	2.0	
						情報処理実習Ⅰ(法2)							2.0		2.0	0.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0					4.0	4.0	
						生活科学概論	0.1								0.1	0.0	
計	4.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0			10.1	10.0							
准教授	タカシ タカシ 高橋 彩	女	2019/4/1	2019/4/1	福祉心理コース	心理学概論		2.0							0.0	2.0	愛知学院大学大学院総合政策研究科博士(総合政策)
						発達心理学	2.0							2.0	0.0		
						心理学基礎実験					4.0			4.0	0.0		
						発達と学習		2.0						0.0	2.0		
						心理学	2.0							2.0	0.0		
						心理学研究法							2.0		0.0	2.0	
						福祉心理基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0					2.0	2.0	
生活科学概論	0.1								0.1	0.0							
計	4.1	4.0	2.0	4.0	4.0	2.0			10.1	10.0							
講師	イノベ ユキ 相川 悠貴	男	2017/10/1	2019/4/1	食物栄養学専攻	健康管理概論	2.0								2.0	0.0	筑波大学大学院人間総合科学研究科博士(体育科学)
						運動保護学		2.0							0.0	2.0	
						解剖生理学	2.0							2.0	0.0		
						生化学実験					3.0			3.0	0.0		
						解剖生理学実験						3.0		0.0	3.0		
						給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0		1.0	1.0		
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0		1.0	1.0		
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0		
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1								0.1	0.0	
計	4.1	2.2	4.0	4.0	5.0	5.0			13.1	11.2							
講師	スギノ カキ 杉野 香江	女	2017/4/1	2020/4/1	食物栄養学専攻	生化学	2.0								2.0	0.0	鈴鹿医療科学大学保健衛生学研究科修士(保険衛生学)
						栄養学		2.0							0.0	2.0	
						栄養学実験						3.0		3.0	0.0	3.0	
						ライフステージ栄養学	2.0								2.0	0.0	
						調理学実習Ⅲ							3.0		0.0	3.0	
						食生活論		2.0							0.0	2.0	
						特別演習			4.0	4.0					4.0	4.0	
						管理栄養特殊講義		0.2							0.0	0.2	
						生活科学概論	0.1								0.1	0.0	
						計	4.1	4.2	4.0	4.0	0.0	6.0			8.1	14.2	
助教	イノベ ユキ 飯田 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	三重短期大学家政科食物栄養学専攻	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0			4.1	4.2							
助教	ハツトリ トモミ 服部 知美	女	2019/4/1	2019/4/1	食物栄養学専攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	鈴鹿医療科学大学医療科学研究科医療科学修士	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0			4.1	4.2							
助教	フクヤ トモキ 福安 智哉	男	2020/4/1	2020/4/1	食物栄養学専攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科修士(栄養学)	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0		
計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0			4.1	4.2							

[注] 1 1授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。
2 2020年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2020年度)

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
法経科	教授	2	1	0	1	0	0	0	0	4
		50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	1	3	1	1	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	1	1	1	1	4
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		2	1	0	2	4	2	2	1	14
定年 65歳		14.3%	7.1%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	7.1%	100.0%

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
生活科学科	教授	1	1	2	0	1	1	0	0	6
		16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	1	4	0	0	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	0	1	1	0	2
助教	0	0	1	1	0	0	1	0	3	
合計		1	1	3	2	5	2	2	0	16
定年 65歳		6.3%	6.3%	18.8%	12.5%	31.3%	12.5%	12.5%	0.0%	100.0%

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
全学科	教授	3	2	2	1	1	1	0	0	10
		30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	2	7	1	1	0	11
		0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	63.6%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	1	2	2	1	6
助教	0	0	1	1	0	0	1	0	3	
合計		3	2	3	4	9	4	4	1	30
定年 65歳		10.0%	6.7%	10.0%	13.3%	30.0%	13.3%	13.3%	3.3%	100.0%

[注] 2020年5月1日時点の状況を示す。

表5 事務組織 (2020年度)

	部 署 名	担当名	専任職員		兼務職員	常勤嘱託 職 員	臨時職員	その他	計
				うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	6	2(1)	1		2		8
	大学総務課	総務担当	5	2	3(1)		8	1	14
		地域連携センター							
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
合 計			15	7(2)	4(1)		12	1	28

[注] 1 () 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専任担当率

[2018年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.83	25.50	26.33
			兼任担当科目数 (B)	0.17	29.50	29.67
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	83.00	46.36	47.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.75	13.75	16.50
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	45.83	40.44	41.25
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.89	18.00	18.89
			兼任担当科目数 (B)	0.11	17.00	17.11
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	89.00	51.43	52.47
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.50	16.00
			兼任担当科目数 (B)	2.50	19.50	22.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	42.65	42.11
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5.00	28.00	33.00
			兼任担当科目数 (B)	2.00	26.00	28.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	71.43	51.85	54.10
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	33.00	35.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	48.00	48.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	40.74	42.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74

[2019年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	26.00	26.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	29.00	29.09
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	91.00	47.27	48.05
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.50	16.25	18.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	41.67	46.43	45.73
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	18.00	18.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	17.00	17.09
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	91.00	51.43	52.53
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	19.00	21.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	45.71	44.87
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	30.00	36.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	24.00	25.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	85.71	55.56	59.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	46.43	44.38
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	36.00	38.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	44.00	44.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	45.00	46.34
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	46.43	44.38

[2020年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	28.00	29.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	25.00	25.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	52.83	53.70
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.50	14.00	16.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	41.67	42.42	42.31
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	18.00	19.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	14.00	14.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	56.25	57.58
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	13.00	14.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	16.00	18.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	44.83	43.94
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	34.90	40.90
			兼任担当科目数 (B)	1.00	18.10	19.10
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	85.71	65.85	68.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	42.42	40.79
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	41.00	43.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	46.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	47.13	48.31
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	42.42	40.79

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必須科目と選択必須科目をあわせたものである。
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2018年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	222	1.11	125	97	4	4.12	
	第2部	150	300	169	0.56	76	93	16	17.20	
計		250	500	391	0.78	201	190	20	10.53	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	57	48	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	211	1.06	113	98	4	4.08	
計		150	300	316	1.05	170	146	4	2.74	
合計		400	800	707	0.88	371	336	24	7.14	

2018年5月1日現在

[2019年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	238	1.19	109	129	3	2.33	
	第2部	150	300	174	0.58	96	78	9	11.54	
計		250	500	412	0.82	205	207	12	5.80	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	106	1.06	49	57	1	1.75	
	生活科学専攻	100	200	222	1.11	113	109	1	0.92	
計		150	300	328	1.09	162	166	2	1.20	
合計		400	800	740	0.93	367	373	14	3.75	

2019年5月1日現在

[2020年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	218	1.09	107	111	8	7.21	
	第2部	150	300	189	0.63	86	103	12	11.65	
計		250	500	407	0.81	193	214	20	9.35	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	98	0.98	49	49	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	226	1.13	112	114	5	4.39	
計		150	300	324	1.08	161	163	5	3.07	
合計		400	800	731	0.91	354	377	25	6.63	

2020年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2018年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	31	6	19.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		3	
	社会福祉士	9	3	33.3
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	47	42	89.4
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	3	100.0

[2019年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	30	7	23.3
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	12	2	16.7
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	57	56	98.2
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許			

[2020年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	25	10	40.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		5	
	社会福祉士	8	0	0.0
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	49	45	91.8
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許			

[注] 1 2級建築士合格者数は、本学が把握した人数を計上した。
受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2018年度			2019年度			2020年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	97	93	95.9	129	116	89.9	111	103	92.8
	第2部	93	76	81.7	78	60	76.9	103	82	79.6
計		190	169	88.9	207	176	85.0	214	185	86.4
生活科学科	食物栄養学専攻	48	46	95.8	57	57	100.0	49	47	95.9
	生活科学専攻	98	91	92.9	109	101	92.7	114	109	95.6
計		146	137	93.8	166	158	95.2	163	156	95.7
合計		336	306	91.1	373	334	89.5	377	341	90.5

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路	2018年度	2019年度	2020年度		
法経科	第1部	就職	民間企業	52	65	54	
			官公庁	15	7	9	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	13	25	16	
			上記以外	1	3	3	
		そ の 他	12	16	21		
	合 計	93	116	103			
	第2部	就職	民間企業	28	21	21	
			官公庁	4	1	1	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	11	15	22	
上記以外			0	4	4		
そ の 他		33	19	34			
合 計	76	60	82				
法経科 計			169	176	185		
生活科学科	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	36	48	39	
			官公庁	1	0	0	
			上記以外	0	0	0	
		(A) (29) (32) (29)					
		進学	他大学編入	6	4	5	
			上記以外	1	3	1	
	そ の 他	2	2	2			
	合 計	46	57	47			
	生活科学 専攻	就職	民間企業	58	70	60	
			官公庁	4	2	4	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	16	15	19	
			上記以外	2	1	2	
そ の 他		11	13	24			
合 計	91	101	109				
生活科学科 計			137	158	156		

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2018年度				2019年度				2020年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	1	0(0)	1	0.5	6	4(2)	10	4.2	3	3(3)	6	2.8
	第2部	4	6(3)	10	5.9	5	4(2)	9	5.2	4	5(2)	9	4.8
計		5	6(3)	11	2.8	11	8(4)	19	4.6	7	8(5)	15	3.7
生活科学科	食物栄養学専攻	1	1(0)	2	1.9	0	0(0)	0	0.0	0	0(0)	0	0.0
	生活科学専攻	5	2(0)	7	3.3	4	3(1)	7	3.2	3	1(0)	4	1.8
計		6	3(0)	9	2.8	4	3(1)	7	2.1	3	1(0)	4	1.2
合 計		11	9(3)	20	2.8	15	11(5)	26	3.5	10	9(5)	19	2.6

【休学者】

学 科	部・専攻	2018年度			2019年度			2020年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	0	0(0)	0	1	0(0)	1	1	0(0)	1
	第2部	2	1(0)	3	0	2(0)	2	0	2(1)	2
計		2	1(0)	3	1	2(0)	3	1	2(0)	3
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	1	0(0)	1	0	0(0)	0
	生活科学専攻	0	0(0)	0	0	2(0)	2	1	1(0)	2
計		0	0(0)	0	1	2(0)	3	1	1(0)	2
合 計		2	1(0)	3	2	4(0)	6	2	3(0)	5

- 【注】 1 () 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。
 2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。
 3 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科部・専攻	入試の種類		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	過去5年間におけるA/Bの平均(%)
第1部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	71	67	77	78	60	109.4%
		合格者	54	53	53	52	56	
		入学者	54	53	53	52	56	
		入学定員	50	50	50	50	50	
	一般選抜 (一般入試)	志願者	128	120	140	123	107	
		合格者	70	77	64	64	73	
		入学者	38	62	39	40	48	
		入学定員	40	40	40	40	40	
	共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	45	40	93	70	17	
		合格者	21	31	32	33	12	
		入学者	6	10	17	14	5	
		入学定員	10	10	10	10	10	
	第1部 計	志願者	244	227	310	271	184	
		合格者	145	161	149	149	141	
		入学者(A)	98	125	109	106	109	
		入学定員(B)	100	100	100	100	100	
A/B		0.98	1.25	1.09	1.06	1.09		
法経科 第2部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	25	34	35	35	23	56.7%
		合格者	22	28	30	26	20	
		入学者	11	12	13	12	7	
		入学定員	30	30	30	30	25	
	一般選抜 (一般入試)	志願者	38	28	33	33	24	
		合格者	29	23	25	25	22	
		入学者	26	21	24	21	18	
		入学定員	40	40	40	40	25	
	共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	51	54	90	79	42	
		合格者	50	53	79	68	41	
		入学者	33	31	56	43	23	
		入学定員	50	50	50	50	25	
	社会人特別選抜	志願者	18	12	5	10	7	
		合格者	17	12	4	10	6	
		入学者	15	12	4	10	6	
		入学定員	30	30	30	30	25	
第2部 計	志願者	132	128	163	157	96		
	合格者	118	116	138	129	89		
	入学者(A)	85	76	97	86	54		
	入学定員(B)	150	150	150	150	100		
	A/B	0.57	0.51	0.65	0.57	0.54		
学科 合計	志願者	376	355	473	428	280	78.9%	
	合格者	263	277	287	278	230		
	入学者(A)	183	201	206	192	163		
	入学定員(B)	250	250	250	250	200		
	A/B	0.73	0.80	0.82	0.77	0.82		

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

学科	部・専攻	入試の種類		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	過去5年間におけるA/Bの平均(%)
食物栄養学専攻	食物栄養学専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	29	38	39	28	32	98.0%
			合格者	21	23	22	25	29	
			入学者	21	23	22	25	29	
			入学定員	20	20	20	20	25	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	47	75	44	40	20	
			合格者	39	45	39	40	18	
			入学者	21	29	22	21	9	
			入学定員	25	25	25	25	20	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	14	21	32	15	21	
			合格者	13	14	21	15	21	
			入学者	6	5	5	3	4	
			入学定員	5	5	5	5	5	
	学科 合計	志願者	90	134	115	83	73		
		合格者	73	82	82	80	68		
		入学者 (A)	48	57	49	49	42		
		入学定員 (B)	50	50	50	50	50		
A/B		0.96	1.14	0.98	0.98	0.84			
生活科学専攻	生活科学専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	26	33	36	31	38	108.2%
			合格者	26	32	35	31	36	
			入学者	26	32	35	31	36	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	65	73	74	75	79	
			合格者	61	67	69	65	74	
			入学者	36	42	46	36	42	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	70	129	78	104	38	
			合格者	68	61	53	61	37	
			入学者	27	31	28	33	20	
			入学定員	20	20	20	20	20	
	関連分野特別選抜	志願者	6	7	4	12	9		
		合格者	6	7	4	8	8		
		入学者	6	7	4	8	8		
		入学定員	5	5	5	5	5		
	社会人特別選抜	志願者	1	1	1	5	3		
		合格者	0	1	1	4	3		
		入学者	0	1	0	4	2		
		入学定員	0	0	0	0	0		
学科 合計	志願者	168	243	193	227	167			
	合格者	161	168	162	169	158			
	入学者 (A)	95	113	113	112	108			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
	A/B	0.95	1.13	1.13	1.12	1.08			
短期大学合計	短期大学合計	志願者	634	732	781	738	520	88.6%	
		合格者	497	527	531	527	456		
		入学者 (A)	326	371	368	353	313		
		入学定員 (B)	400	400	400	400	350		
		A/B	0.82	0.93	0.92	0.88	0.89		

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

[注] 3 食物栄養学科は2021年度に新設。2020年度まで生活科学科食物栄養学専攻。

[注] 4 入試の種類の内括弧内の名称は、2020年度入試までの入試名称。

表13 学科の入学者の構成 (2021年度)

学 科	部・専 攻		入 学 者 数					備 考	
			一般選抜	学校推薦 型選抜	共通テスト 利用選抜	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜		計
法経科	第1部	入学定員	40	50	10			100	
		入学者数	48	56	5			109	
		計に対する割合	44.0%	51.4%	4.6%			100.0%	
	第2部	入学定員	25	25	25	25		100	
		入学者数	18	7	23	6		54	
		計に対する割合	33.3%	13.0%	42.6%	11.1%		100.0%	
食物栄養学科	入学定員	20	25	5			50		
	入学者数	9	29	4			42		
	計に対する割合	21.4%	69.0%	9.5%			100.0%		
生活科学科	入学定員	30	45	20	0	5	100		
	入学者数	42	36	20	2	8	108		
	計に対する割合	38.9%	33.3%	18.5%	1.9%	7.4%	100.0%		
合 計	入学定員	115	145	60	25	5	350		
	入学者数	117	128	52	8	8	313		
	計に対する割合	37.4%	40.9%	16.6%	2.6%	2.6%	100.0%		

2021年4月4日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	開室時間	年間開設日数			年間相談件数			備 考
				2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度	
学生相談室	0	1	10:30 ~ 13:30	/	8	9	/	12	19	臨床心理士
	0	1	14:30 ~ 16:30	/	/	1	/	/	1	臨床心理士
	0	1	16:30 ~ 19:30	22	37	36	33	70	89	臨床心理士
	0	1	10:00 ~ 13:00	21	/	/	16	/	/	スクール カウンセ ラー

表15 奨学金給付・貸与状況 (2020年度)

(単位:千円)

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 (A)	在籍学生 総数 (B)	在籍学生数に 対する比率 (%) A/B	支給総額 (C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	289	731	39.5%	147,388	510
	給付	124		17.0%	31,383	253
計		413	731	48.9%	178,771	433

表16 授業料免除状況

(人)

年度	2018年度		2019年度		2020年度 (大学独自減免2年)		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
希望者	53	64	64	74	3	4	
全額免除	総数	26	36	30	32	2	2
	法経科第1部	8	10	9	9	2	1
	法経科第2部	7	8	7	8	0	1
	生活科学科	11	18	14	15	0	0
	1年次	10	16	14	19	0	0
	2年次	16	20	16	13	2	2
半額免除	総数	21	24	25	33	0	0
	法経科第1部	6	8	8	10	0	0
	法経科第2部	2	3	3	4	0	0
	生活科学科	13	13	14	19	0	0
	1年次	10	14	11	12	0	0
	2年次	11	10	14	21	0	0
不採用	6	4	9	9	1	2	

(人)

年度	2020年度 (修学支援新制度に基づく)	
	前期	後期
希望者	136	121
全額免除	総数	78
	法経科第1部	23
	法経科第2部	22
	生活科学科	33
	1年次	41
	2年次	37
2 / 3 免除	総数	26
	法経科第1部	7
	法経科第2部	7
	生活科学科	12
	1年次	14
	2年次	12
1 / 3 免除	総数	19
	法経科第1部	4
	法経科第2部	7
	生活科学科	8
	1年次	14
	2年次	5
不採用	13	

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2018年度			2019年度			2020年度			
		研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	
法経科	学内	研究費総額	4,745,000	100%	365,000	5,110,000	100%	365,000	4,928,000	100%	352,000
		経常研究費	2,860,000	60%	220,000	3,080,000	60%	220,000	3,080,000	63%	220,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	1,885,000	40%	145,000	2,030,000	40%	145,000	1,848,000	37%	132,000
		科学研究費補助金									
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金									
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
生活 科学科	学内	研究費総額	10,925,000	100%	315,000	10,050,000	100%	315,000	12,994,000	100%	302,000
		経常研究費	2,550,000	23%	170,000	2,720,000	27%	170,000	2,720,000	21%	170,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,175,000	20%	145,000	2,320,000	23%	145,000	2,112,000	16%	132,000
		科学研究費補助金	5,200,000	48%	—	3,510,000	35%	—	4,550,000	35%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	1,000,000	9%	—	1,500,000	15%	—	3,612,000	28%	—
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2018年度			2019年度			2020年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
生活科学科	1	0	0.0	2	2	100.0	3	1	33.3
計	2	0	0.0	2	2	100.0	3	1	33.3

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況 (2020年度)

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率 (%) A/B	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	313.0	19.5	40.0	14	100%	22.4	0
生活科学科	15	1	16	415.1	25.5	32.5	16	94%	25.9	1
計	29	2	31	728.1						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数 (2020年度)

法経科 (14人)

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		11.2 授業時間	10.3 授業時間	10.3 授業時間		1 授業時間:45分
最低		6.0 授業時間	7.2 授業時間	10.2 授業時間		
平均		9.1 授業時間	9.6 授業時間	10.2 授業時間		

生活科学科 (16人)

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		11.4 授業時間	11.2 授業時間	12.2 授業時間	4.2 授業時間	1 授業時間:45分
最低		9.1 授業時間	9.1 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	
平均		10.5 授業時間	10.0 授業時間	11.7 授業時間	4.2 授業時間	

[注] 1 表3で算出した毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
オープンカレッジ	10	10	0	600	600	0	508	516	0	51	52	0
地域連携講座	2	1	0	120	120	0	77	40	0	39	40	0
出前講座	26	24	3	—	—	—	1,563	946	56	60	39	19
計	38	35	3	720	720	0	2,148	1,502	56	57	43	19

[注] 1 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオープンカレッジと地域連携講座は中止とした。

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2020年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要 校地面積 (m ²)	校舎面積 (m ²)	設置基準上必要 校舎面積 (m ²)	講義室・演習 室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m ²)
25,045	8,000	7,059	5,700	27	2,530

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

[注] 2 校地面積は令和元年度地籍調査により修正。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2020年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備考
講義室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	731	1.54	
演習室	1	45	生活専用	12	324	0.14	
	5	75	法経専用	60	407	0.18	
	2	160	共用	75	731	0.22	
実験室	2	265	生活専用	100	324	0.82	
			法経専用				
			共用				
実習室	5	700	生活専用	241	324	2.16	
			法経専用				
	1	161	共用	52	731	0.22	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2020年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
三重短期大学附属図書館	102,240	35,000	100	15	379	12	2,075	1,704	1,013	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2020年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数	利用者用PC (台)		視聴覚資料 視聴ブース (席)
		座席数 (A)				資料検索	データ ベース	
三重短期大学附属図書館	404	76	800	9.5	0	1	1	3

表26 図書館利用状況

専任 スタッフ数 (人)	非常勤 スタッフ数 (人)	年間 開館 日数	開館時間	入館者数 (人)			貸出者数 (人)			貸出冊数 (冊)		
				2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
2 (1)	1.5 (1.5)	209	開講日 8:30 ~21:00 休講日 8:30~ 17:00	15,684	18,063	9,152	3,304	3,547	2,229	6,476	6,304	4,327
							学内	学内	学内	学内	学内	学内
							3,163 [教職員 398 学生 2,765]	3,439 [教職員 411 学生 3,028]	2,156 [教職員 264 学生 1,892]	6,141 [教職員 1,144 学生 4,997]	6,127 [教職員 892 学生 5,235]	4,204 [教職員 644 学生 3,560]
							学外 141	学外 108	学外 73	学外 335	学外 177	学外 123

- [注] 1 スタッフ数の () 内数字は司書の資格を有するものの人数。
 2 開館時間には1月と7月の臨時開館日(土曜開館、月末開館)は含まない。
 3 入館者数は、貸出者数と閲覧利用等の利用者数の合計値。
 4 貸出者数、貸出冊数は、学内、学外の合計値。
 5 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5人で換算。

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
歳入合計		551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	604,429,000
	授業料	217,225,000	219,779,000	215,652,500	219,095,000	227,303,500	204,116,600	196,371,000
	入学料	55,925,100	53,821,000	47,446,100	59,368,700	56,654,200	41,750,700	51,937,000
	入学検定料	13,348,000	11,513,000	13,203,000	14,138,000	13,370,000	9,462,000	12,940,000
	その他歳入	7,959,822	7,894,488	54,290,884	8,042,978	70,056,906	10,663,883	1,720,000
	一般財源	257,010,175	246,911,425	253,680,542	228,244,355	244,322,062	286,544,546	341,461,000
歳出合計		551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	604,429,000
	①一般職給	433,581,648	418,798,765	411,884,817	407,120,234	417,178,346	431,131,614	439,378,000
	②大学管理運営事業	85,099,170	85,214,101	90,504,584	90,002,209	93,185,047	94,223,972	131,978,000
	③図書館管理運営事業	10,372,135	11,140,792	13,864,018	12,460,385	12,819,690	12,770,076	12,594,000
	④地域貢献推進事業	1,102,125	765,312	1,020,967	780,031	676,046	520,328	997,000
	⑤地域問題研究事業	2,355,300	2,393,756	2,436,758	2,360,368	1,034,866	2,595,544	2,722,000
	⑥教育研究関係事業	12,912,875	12,981,364	11,752,205	11,701,803	11,516,508	8,982,125	7,058,000
	⑦施設維持補修事業	6,044,844	8,624,823	52,809,677	4,464,003	75,296,165	2,314,070	9,702,000

(各年決算資料より作成 2021年度は予算額)

表28 教授会開催状況 (2020年度)

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/2	臨時	34	1	1 2020年度行事日程の変更について
4/16	定例	34	1	1 2020年度各種委員会委員について 2 退学願について 3 既修得単位の認定について 4 2020年度開設講座表及び時間割の変更について
5/8	臨時	33	2	1 前期講義について
5/14	臨時	35	0	1 本年度入学試験日程について 2 令和2年度行事日程の変更について 3 2020年度開設講座表及び時間割の変更について
5/21	定例	35	0	1 退学願について 2 既修得単位の認定について 3 CAP制の導入について 4 法経科第2部長期履修学生規程(案)について 5 学則の一部改正について 6 遠隔授業の実施について 7 対面授業の開始について
6/4	臨時	34	1	1 座席表について 2 前期時間割(授業形態)について 3 対面授業開始について
6/25	定例	35	0	1 前期時間割について 2 入試に関する6月19日付文部科学省通知への対応について
7/2	臨時	31	4	1 座席表について 2 前期時間割(授業形態)について 3 入試に関する6月19日付文部科学省通知への対応について
7/16	定例	35	0	報告事項のみ
8/6	臨時	34	1	1 8月24日以降の授業形態について 2 新型コロナウイルス感染拡大に伴う三重短期大学の活動指針について 3 三重短期大学危機管理事例対応マニュアルについて 4 専任教員の昇任について
9/3	臨時	35	0	1 後期行事日程について 2 後期時間形態について 3 休学願・退学願について 4 2021年度開設講座表について 5 三重短期大学研究倫理規程の一部改正について 6 研究データの保存・管理・開示の方法に関するガイドラインの一部改正について
9/11	臨時	34	1	1 令和2年9月卒業判定について 2 2020年度開設講座表及び時間割の変更について 3 非常勤講師の採用について 4 教員評価について
10/15	定例	34	1	1 退学願・休学願について 2 令和3年度行事日程について 3 三重短期大学研究倫理規程の一部改正について 4 サバティカル研修申請について 5 在外研修の承認について

11/12	臨時	35	0	1 令和3年度関連分野特別選抜入学試験合否判定について
11/19	定例	35	0	1 退学願・休学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2020年度時間割の変更について 4 2021年度開設講座表の変更について 5 三重短期大学学位規程の一部改正について 6 三重短期大学再入学に関する規程の一部改正について 7 三重短期大学成績評価にかかわる異議申立てに関する規程の一部改正について 8 三重短期大学不正行為判定委員会規程の一部改正について 9 三重短期大学学生懲戒規程の一部改正について 10 三重短期大学ハラスメントの防止に関する規程の一部改正について 11 ハラスメントの防止等に関するガイドラインの一部改正について 12 特別警報及び警報発表時等における授業及び登下校に関する内規の一部改正について 13 三重短期大学評価委員会規程の一部改正について
12/17	定例	31	3	1 令和3年度学校推薦型選抜及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師の採用について 3 令和3年度行事日程について 4 2021年度開設講座表及び時間割の変更について 5 三重短期大学学則の一部改正について 6 三重短期大学教授会規程の一部改正について 7 三重短期大学入学試験管理委員会規程の一部改正について 8 三重短期大学発展計画委員会規程の一部改正について 9 三重短期大学広報委員会規程の一部改正について 10 三重短期大学学務委員会規程の一部改正について 11 三重短期大学連絡調整会議規程の一部改正について 12 三重短期大学内部質保証推進委員会規程の一部（追加）改正について 13 特別警報及び警報発表時等における授業及び登下校に関する内規の一部（追加）改正について 14 追加合格手続に関する申合せの改訂について
1/21	定例	34	1	1 退学願・休学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2021年度開設講座表及び時間割の変更について 4 三重短期大学教員評価委員会規程の一部改正について 5 三重短期大学FD・SD活動推進委員会規程の一部改正について 6 三重短期大学障がい学生支援委員会規程の一部改正について 7 三重短期大学図書館委員会規程の一部改正について 8 三重短期大学地域連携委員会規程の一部改正について 9 三重短期大学研究倫理委員会規程の一部改正について 10 三重短期大学食堂委員会規程の一部改正について 11 シラバスの充実に向けての一部改正について 12 令和4年度入試日程について 13 定期試験実施マニュアルの一部改正について 14 学生部長の改選について 15 附属図書館長兼地域連携センター長の改選について
2/15	臨時	34	1	1 令和3年度一般選抜入学試験の合否判定について 2 休学願について 3 専任教員の昇任について 4 非常勤講師の採用について 5 2021年度開設講座表及び時間割の変更について

2/25	臨時	34	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和2年度卒業判定について 2 令和2年度栄養士免許取得要件の判定 3 非常勤講師の採用について 4 三重短期大学欠席・欠課・遅刻・早退・忌引等に関する規程の一部改正について 5 三重短期大学地域問題研究所規程の一部改正について 6 三重短期大学ハラスメントの防止に関する規程の一部改正について 7 ハラスメントの防止等に関するガイドラインの一部改正について 8 三重短期大学ハラスメント防止宣言の一部改正について 9 ハラスメント申立書の一部改正について 10 三重短期大学遺伝子組換え実験安全管理規程の一部改正について 11 2021年度開設講座表及び時間割の変更について ※ 教授会終了後、研究倫理委員会と競争的資金等不正防止委員会が合同で、全教員を対象に研修会を実施
3/8	臨時	34	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度大学入学共通テスト利用選抜（法経科第1部・食物栄養学科・生活科学科）・法経科第2部（一般・社会人選抜・大学入学共通テスト利用選抜）入学試験の合否判定について
3/24	臨時	32	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 退学願について 2 2021年度三重短期大学運営方針について 3 2021年度キャリア支援方針について 4 再入学希望者に係る審査結果について 5 法経科転部希望者の選考結果について 6 令和3年度科目等履修生・聴講生の合否判定について 7 非常勤講師の資格変更（昇任）について 8 成績変更に伴う卒業判定について 9 令和3年度行事日程について 10 2021年度開設講座表及び時間割の変更について 11 教員評価について 12 教員資格審査委員会委員の改選について

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動			
1 研究課題：イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、英語講読（共通、昼、通年、2）、英語講読（共通、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ソフトテニス部顧問		
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーでは進路や学習についての相談に応じ、編入学希望学生には過去問の採点、志望理由書の添削、面接練習などを行った。またTOEICや英検受験希望学生に、学習方法などの指導を行った。		
教育上の工夫	<p>英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。同様の状況が今後も続く場合、プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p> <p>英語講読（共通、昼、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。同様の状況が今後も続く場合、プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p> <p>英語講読（共通、夜、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。同様の状況が今後も続く場合、プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1. 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	文部科学省 大学設置・学校法人審議会委員 三重県 県民功労者選考委員 内閣府 男女共同参画推進連携会議議員 日本高等教育評価機構 短期大学評価判定委員 全国公立短期大学協会 副会長 三重とこわか国体・三重とこわか大会津市実行委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	中央教育審議会大学分科会第4回質保証システム部会 意見発表（「公立短期大学における内部質保証に関する検討の視点および想定される論点について」）（2020年9月28日） 日本英文学会中部支部 第72回大会（開催校：岐阜大学 2020年10月24日）研究発表（第2室イギリス文学）司会担当		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
小学生の頃、石井桃子訳の『くまのプーさん』を読んでイギリス文学が大好きになり、日本語訳ではなく原語で読めるようになりたいと思ったことが英語学習のスタートです。大学2年生の時にイギリスの詩人ジョン・キーツの作品に出会い、イギリス文学研究の道を歩むことになりました。研究者となり教員となりましたが、「イギリスと英語が大好き」ということに今も変わりありません。「受験英語」として仕方なく学んできたという人も多いと思いますが、受験勉強から解放された大学の2年間、英文を読み解く楽しさを学生の皆さんと共有できればと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：楠本 孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチの刑事規制			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法1、昼、前期、4）、刑法（法2、夜、前期、4）、刑事政策（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	文學部顧問		
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	刑法（法1、昼、前期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。		
	刑法（法2、夜、後期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。		
	刑事政策（法1、昼、後期、2） 死刑存廃論、終身刑導入論、少年法の概要、少年法改正、精神障害者の犯罪と対策について、丁寧に時間をかけて講義した。		
	法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 山口厚『刑法入門』（岩波新書）をゼミ生全員で精読した。		
	演習（法1、昼、通年、4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。		
	社会科学演習（法2、夜、通年、4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市人権施策審議会委員、津市青少年問題協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	三重県議会の差別解消を目指す条例検討調査特別委員会で参考人として「外国人との共生の在り方」について意見陳述（2020年10月5日）		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
川崎市「差別のない人権尊重のまちづくり条例」について研究中です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：金融論（法1、昼、後期、4）、金融論（法2、夜、前期、4）、国際経済論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、キャリア形成セミナー（共通、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	学生部長、就活部顧問、三重短期大学生協理事長		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィサー、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	<p>金融論（法1、昼、後期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>国際経済論（法1、昼、前期、2） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学を予定していたが、コロナ禍で中止した。前期は見学に向けた準備として日本銀行の機能や役割について学んだ。後期は卒論作成を通じた論文作成指導を行い、ゼミでは学生の興味関心に即したテーマを設定し、地方銀行の現状、国際金融などをテーマとした。</p> <p>金融論（法2、夜、前期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期はSDGsをテーマとし、各主体がどのように目標に貢献できるのかを討議した。</p> <p>キャリア形成セミナー（共通、昼、前期、2） 学生に今後の職業選択を考えてもらうための一助とするため、様々な分野で活躍している外部講師を招き、オムニバス形式で講演してもらう予定だったが、コロナ禍のため中止とした。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会、日本科学者会議			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジを担当予定であったがコロナ禍のため中止となった		
学外審議会委員等	三重県地方卸売市場運営協議会委員、みえ夢学園高校評価委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>学生部長として、研究よりもコロナ禍の中でどのように授業を実施するかを考える一年でした。周囲の助けと、皆様のご協力のおかげで学内で感染者を出すことなく任期を終わることができてほっとしています。今後は、しばらく中断していた研究を再開し、この間考えていた日本銀行の異次元緩和の是非について研究をまとめていきたいと思っています。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：藤枝 律子
I 研究活動			
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加			
2 研究活動実績			
著書	『地方自治法と住民』共著（法律文化社、2020年5月）第13章「学校教育と社会教育」執筆担当		
論文	「地方議会改革の取組-三重県議会基本条例を素材に-」三重法経153号2021年3月91-105頁 査読有		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「行政法」（法1、昼、前期、4）、「行政法」（法2、夜、前期、4）、「演習」（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、「地方自治法」（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー(火曜日16:10~17:40)、学外演習(裁判傍聴)、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	<p>行政法（法1、昼、前期、4） 学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しました。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。</p> <p>行政法（法2、夜、前期、4） 判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しました。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択します。判決文や参考文献を読み込んでから、自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、出された意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。</p> <p>地方自治法（法1、昼、後期、2） ドキュメンタリー等の視覚教材や新聞の切り抜き等を活用して、地方自治に関心を持てもらえるように工夫しました。少しでも自分の住んでいる「まち」に関して興味・関心を持てるように、出来るだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心掛けています。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、三重県行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員、四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員、三重県私立学校審議会委員、三重県男女共同参画審議会委員、鈴鹿市景観審議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：内部留保の経営分析、実質法人税負担率の算定分析			
2 研究活動実績			
著書	共著『企業と社会がわかる 市民が学ぶ決算書』唯学書房、76-89頁、97-113頁、124-131頁、2020年4月。		
論文			
その他	共著「2021年版『税制改革の提言』第4法人所得課税について」『KOKKO』堀之内出版、79-94頁、2021年2月。		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：会計学（法1、昼、前期、4）、会計学（法2、夜、前期、4）、税務会計論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 （その他）	毎週一時間半のオフィスアワーを実施した。ゼミ生に対し、編入時の志望理由書の作成、編入面接の指導を行った。卒業論文の作成指導を行った。		
教育上の工夫	<p>会計学（法1、昼、前期、4） 新型コロナウイルスの蔓延により、遠隔授業で講義を実施した。遠隔授業とのことで工夫した点は、メールで丁寧に返信することにとめた。本講義は、遠隔授業は出席がしやすかったのか、ほとんど全ての学生が毎回出席し、単位の取得ができた。</p> <p>会計学（法2、夜、前期、4） 1部の授業と同様、新型コロナウイルスの蔓延により、遠隔授業で講義を実施した。遠隔授業とのことで工夫した点は、メールで丁寧に返信することにとめた。</p> <p>税務会計論（法1、昼、前期、2） 遠隔授業にて講義を実施した。拙著を使用したため、講義をスムーズに進めることができた。遠隔授業とのことで、工夫した点は、質問等に対して、メールで丁寧に返信することにとめた。遠隔授業の方が対面授業と比較すると出席率は高かった。ただ、授業に対する満足度は対面授業の方が高いように感じた。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 対面授業にて、指定教科書の輪読と卒業論文の報告会を実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	後期は、名城大学へ研修に出た。三重短期大学生協監事。		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
新型コロナウイルスの蔓延により、全世界的に不況に陥ろうとしています。今こそ、企業の内部留保や法人税の負担率を分析することで、企業が抱える問題について明らかにしていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：大畑 智史
I 研究活動			
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「エックス税の問題点—クラウド型ERPの意義—」（国際文化政策研究教育学会ワーキングペーパー、1-32頁、2020年）		
その他	「クラウド型ERPの拡張」（三重短期大学地域問題研究所『地研年報』25、53-60頁、2020年）		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：地方財政論（法1、昼、前期、2）、地方財政論（法2、夜、前期、2）、財政学（法1、昼、後期、4）、財政学（法2、夜、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	新聞部顧問		
学内教育活動 （その他）	1年クラス対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー 2年演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー、学外学習（自由参加、尾鷲市方面（12月実施）、現地の方との交流を重視）		
教育上の工夫	<p>地方財政論（法1、昼、前期、2）</p> <p>できるだけ、各論点（地方債、公会計、他）の重要な点を、その関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的に、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組みをしている。</p> <p>地方財政論（法2、夜、前期、2）</p> <p>基本的な工夫は「地方財政論」（法1、昼）と同じだが、社会人の受講生が居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している。</p> <p>財政学（法1、昼、後期、4）</p> <p>基本的工夫は、「地方財政論」（法1、昼）と同様である。「財政学」独自の教育上の工夫として、中間テストを入れ、受講生の側、自身の側で、授業の効果を確かめる、などの取組みを行っている。</p> <p>財政学（法2、夜、後期、4）</p> <p>基本的な工夫は「財政学」（法1、昼）と同じだが、社会人の受講生が居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4）</p> <p>卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部社会科学演習の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、学外学習の実施、などの工夫を行っている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4）</p> <p>基本的な工夫は「演習」（法1、昼）と同様である。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、基礎経済科学研究所 自由大学院事務局員、日本科学者会議三重支部幹事（会計担当）、三重県政府調達苦情検討委員会委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。（研究テーマの応用例：日本の税制へのエックス税構想の意義—ICT活用の視点から—）			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2020年度)

所属：法経科	職名：准教授	氏名：今本 幸平
I 研究活動		
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：独語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、独語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、独語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生のクラス担任として学生の履修指導を行った。2年生の編入面接練習、志望理由書の添削を行った。 オフィスアワー：火曜1300-1430	
教育上の工夫	独語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）	感染防止のため、大教室での講義となり、発音練習も行えない状況であったが、真面目に取り組む学生が多かった。文法事項の説明や練習問題の解答には板書を行わず、全てパワーポイント資料を用いた。要点を整理しやすくなった半面、教室の構造上、画面内に誤字などがあった場合に黒板での訂正指示が難しいため、今後は使用前に念入りに校正を行いたい。
	独語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）	昼間よりも受講者数が少なかったため、小教室での講義だったが、昼間と同様にパワーポイントを使用した。要点を整理しやすくなった点良かった。
	独語Ⅱ（共通、昼、通年、2）	新たな文法事項をスムーズに学べるように、独語Ⅰで学んだ内容を随時復習するようにしている。今年度は前期後半以降、後期末までが遠隔講義となった。教科書の文法事項を勉強した後は、検定試験の類似問題を用いて文法事項の定着に努め、講義音声とPDF資料で詳細な解説を行った。
	文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）	普段あまり読書をしていないという学生でも、読んでみようという気持ちが少しでも起きるように、ポイントとなる場面の解説を関連画像なども用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。
	文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）	昼間の授業に比べると、授業で取り上げた作品を自主的に読むなどする熱心な学生が多かった印象であった。読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。
	文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）	ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。
	文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）	ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ遺彦の会、Internationale Wilhelm-Müller-Gesellschaft（国際ヴィルヘルム・ミュラー協会）		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：田添 篤史
I 研究活動		
1 研究課題：社会システムの再生産およびその方向性、経済状態の変化とその政治的帰結		
2 研究活動実績		
著書	単著『「価値」と「価格」で見る日本型資本主義』花伝社。(2021年3月)	
論文	「金融的収益の重要化と格差の変動の関係—収益率均等化の観点から」三重短期大学地域問題研究所『地研年報』第25号、37-51頁(2021年9月) 「多数決による社会変革の条件—大西（2020）のモデルをベースとして」『三重法経』135号(2021年3月)	
その他		
学会等報告	「キャッシュレス経済の現状と課題」基礎経済科学研究所2021年春季研究交流集会(2021年3月)	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経済原論（法1、昼、前期、4）、経済原論（法2、夜、前期、4）、経済学史（法1、昼、後期、2）、統計学（法2、夜、後期、2）、経済学入門（法1、昼、前期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	バドミントン部顧問	
学内教育活動 (その他)	経商コースの1部および2部のクラス担任を受け持ち各種の指導を行った。 ゼミ生に対して編入・就職指導を個別に行った。	
教育上の工夫	<p>経済原論（法1、昼、前期、4） 対面授業では教科書をベースとして要点のみを抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。理解が難しいと思われる箇所については、繰り返し説明するようにした。途中から遠隔授業に切り替わったため、音声ファイルおよびスライドを配布した。授業時間、回数ともに短縮となったため、内容について例年以上に取捨選択を進めた。</p> <p>経済原論（法1、夜、前期、4） 昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、対面授業で行っていた期間については昼の講義で不十分だった点を反省し、夜の講義において説明方法、板書の改善を行った。</p> <p>経済学史（法1、昼、後期、2） 経済学史で取り扱う学者たちの理論は、現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに要点となる考え方が理解しやうい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかむことを意図した説明を行った。この授業についてはすべてを遠隔授業で実施したため、学生が理解しやすいように要点のみに絞り、音声ファイルおよびスライドを作成して配布するという形で授業を進めた。</p> <p>統計学（法2、夜、後期、2） 統計学は確率理論の理解が必須であるため難解な部分が多い。そのため厳密な理解というよりは統計学の考え方を直感的に把握するという点を重視した説明を行った。また毎回の講義の最後には小テストを課し、実際に問題を解かせて説明を加えることで理解を深めることを狙った。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 前期では日本経済に関するテキストを輪読し自分自身の興味ある対象が何かを探し、後期では卒業論文の作成を行うことで自分の意見をまとめていくという流れは例年と同一である。ただし今年度については途中からZoomを利用した遠隔で行うという形式をとった。そのため、例年と比べてゼミでの討論を進めるという点で困難が生じていたように思われる。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期ではテキストの輪読を行い、後期で卒業論文の作成を行うという形で進めた。途中からZoomを利用した実施となった点、内容および重視した点は昼の演習と同一である。</p> <p>経済学入門（法1、昼、前期、2） 今年度は新型コロナウイルスの流行の影響で、この講義についてはすべてを遠隔授業で実施した。形式としては経商コースの各教員が2回ずつ講義を担当し、担当回においては音声ファイルと配布資料を学生に送信し受講させるという形式をとった。例年行っていた図書館および情報処理室の使用方法を説明できなかったため、その点については2年生になった際に参加する演習でフォローを行うこととした。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	経済理論学会編集局員、基礎経済科学研究所理事、基礎経済科学研究所編集局員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師	京都大学経済学研究科「Introduction to East Asian Economics」	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

3 一言アピール

ある社会システムが物質的および制度的に安定的に再生産されるのはどのような場合か、またその方向性は各主体の決定によってどのような影響を受けることになるのかという点について研究を行っています。このことをベースとしながら、経済状態の変化が政治的選択に対してどのような影響を及ぼすのかという点についても研究を進めています。

教育面では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：浅野 和也
I 研究活動			
1 研究課題：自動車産業における労使関係・労務管理研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所編『2020年版 労働年鑑 第90集』旬報社、203-207頁、2020年6月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：経営学（法1、昼、前期、4）、人的資源管理論（法1、昼、前期、2）、経営学（法2、夜、後期、4）、人的資源管理論（法2、夜、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任、就職・編入学指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>経営学（法1、昼、前期、4） パワーポイントはいずれもプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確保するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「わかりやすく面白かった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>人的資源管理論（法1、昼、前期、2） パワーポイントはいずれもプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。人的資源という点、経営者が人材を有効活用するためのツールと思われがちなので、働く側からの視点に重点を置いた内容で講義を実践した。なぜ働きすぎによる過労死や過労自殺、うつ病などが社会問題化しているのか制度や構造的な問題、それが私たちの生活に与える影響などについて幅広く扱った。また、受講者の理解度を確保するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「卒業後の働くことを意識することができてよかった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>経営学（法2、夜、後期、4） 初回から最後まで遠隔授業であり教材と音声を作成して配信、対面とは異なるので丁寧な教材作成と説明を心がけた。普段の講義の雰囲気なるべくそのままのかたちで録音し、無機質なものにないように考慮した。</p> <p>人的資源管理論（法2、夜、後期、2） 初回から最後まで遠隔授業であり教材と音声を作成して配信、対面とは異なるので丁寧な教材作成と説明を心がけた。普段の講義の雰囲気なるべくそのままのかたちで録音し、無機質なものにないように考慮した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をしてもらい、内容について議論した。あわせて、就職指導を行った。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をもらい、内容について議論した。あわせて、編入学・就職指導を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	社会政策学会秋季大会企画委員、労務理論学会理事、北ヨーロッパ学会理事、令和2年度就職氷河期世代活躍支援都道府県プラットフォームを活用した支援に係る提案書技術審査委員会委員、令和3年度若年地域連携事業に関する技術審査委員会委員、令和3年度訓練受講者希望者等に対するジョブ・カード作成支援推進事業に関する技術審査委員会委員、令和3・4年度地域サポートステーション事業に係る提案書技術審査委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	愛知東邦大学経営学部「地域労働市場論」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」		
3 一言アピール			
経営学をはじめ社会科学を学ぶことをつうじて、社会は多種多様な価値観で形成されているからこそ論理的考察が重要であることを感じてもらえたらと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：川上 哲
I 研究活動		
1 研究課題：大都市部における地方自治体史、2000年代以降の行財政改革		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「1970年代の大都市部における政治意識の変容：美濃部東京都政の支持基盤を事例として」『地研年報』第25号（2020年9月） 「2000年代以降の東京都民の階層構造と政治意識に関する予備的考察—東京23区における国政選挙投票率の上昇について—」 『三重法経』第153号（2020年12月） 「コロナ禍を奇貨として加速する地方自治体のデジタル化」日本医療総合研究所『国民医療』No.349（2021年2月）	
その他		
学会等報告	「『自治体戦略2040構想』と地方自治体のデジタル化」（「自治体戦略2040構想」と地方自治のあり方研究会（専修大学社会科学研究所））2021年3月9日（オンライン）	
共同研究 助成研究	専修大学社会科学研究所2020年度研究助成にて白藤博行（専修大学法学部）・山縣宏寿（専修大学経済学部）と「『自治体戦略2040構想』と地方自治のあり方研究」のテーマで共同研究を行った。	
II 教育活動		
1 担当科目：行政学（法1、昼、前期、4）、行政学（法2、夜、後期、4）、地方政治論（法1、昼、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、後、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導	
教育上の工夫	行政学（法1、昼、前期、4） 授業回数が通常よりも少なかったことから、シラバスで示した内容を圧縮して実施した。毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。	
	行政学（法2、夜、後期、4） 授業回数が通常よりも少なかったことから、シラバスで示した内容を圧縮して実施した。毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。	
	地方政治論（法1、昼、後期、4） 授業回数が通常よりも少なかったことから、シラバスで示した内容を圧縮して実施した。毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。	
	演習（法1、昼、通年、4） 受講生が少数であったため、前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。	
	社会科学演習（法2、後、通年、4） 受講生が少数であったため、前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。受講生の主体性を引き出すため、報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本地方自治学会、社会政策学会、同時代史学会、総合人間学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	津市議会議員定数検討特別委員会参考人（2021年1月19日） 津市窓口等業務プロポーザル方式審査委員会外部委員（2021年2月～12月）	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
2000年代以降、地方自治体の改革がめまぐるしく進行しています。国会においてデジタル改革関連法が成立したことから、「デジタル改革」が地方自治体や地域にどのような影響を及ぼしていくのかを注視しています。引き続き、歴史研究として1970年代の日本社会の構造と地方自治の関係性についても研究していく予定です。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：鷲尾 和紀
I 研究活動		
1 研究課題：マーケティング生活価値の創造・サービスマーケティング 教育改革（国際交流による共同研究）		
2 研究活動実績		
著書		
論文	『中国私立大学のリスク回避・統制マネジメント』神奈川大学経営学部『国際経営論集』第60号, pp.31-50, 2020年10月	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究	『2020年教育改革』—学習指導要領「生きる力」に向けて— 都市環境ゼミナール, 2020年8月発表（於：アスト津他） 研究助成金：3万円	
II 教育活動		
1 担当科目：マーケティング論（法1、昼、前期、4）、マーケティング論（法2、夜、後期、4）、 日本経済論（生活・法1、昼、後期、2）、日本経済論（法2、夜、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、 社会科学演習（法2、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	軽音楽部顧問、野球部顧問	
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、学外演習（現場実習）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導、資格取得指導	
教育上の工夫	マーケティング論（法1、昼、前期、4） 単に専門用語を覚えるだけでなく、身の回りから心がけることで将来に向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。授業内において、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めるようにした。遠隔授業と対面授業の併用であったが、途中移行時に混乱なく授業運営が行えた。	
	マーケティング論（法2、夜、後期、4） マーケティング論（法1、昼）と同様な授業展開を行った。 授業スタイルが確立されたことから、前期より工夫をこなしアンケート集計の評価が高まった。	
	日本経済論（生活・法1、昼、後期、2） 日本経済の時事を中心に各テーマを取り上げ、今日の諸問題から未来への提言を合わせ、授業展開を行った。授業内で、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めるようにした。大幅に受講数が増加し、充実のある授業展開が行えたことに満足している。遠隔授業であったが混乱なく授業運営が行えた。	
	日本経済論（法2、夜、後期、2） 日本経済の時事を中心に各テーマを取り上げ、今日の諸問題から未来への提言を合わせ、授業展開を行った。授業内で数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めるようにした。大幅に受講数が増加し、充実のある授業展開が行えたことに満足している。	
	演習（法1、昼、通年、4） 論文を通じて現地調査を行い、論文作成への足掛かりとした。グループ討論を主にを行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。	
	社会科学演習（法2、夜、通年、4） レポート作成、発表を数回行い、論文作成の足掛かりとした。グループ討論を主にを行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本商業学会、パーソナルファイナンス学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等	『2020年教育改革』—学習指導要領「生きる力」に向けて— 都市環境ゼミナール, 2020年8月発表（於：アスト津他）	
その他の社会活動	伊藤達雄研究室都市環境ゼミナール、MUIネットワーク研究会	
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
マーケティングを通じて、生きる力を身につけ社会に対応できる研究活動と学生指導を行っていきたい。時代の最先端に踏み込んだ、未来への新しい発見を追求していきたくと考えている。さらに学生と地域において、還元できるような活動を積極的に行っていきたく。また2020年の学習指導要領改訂に向けた教育体制を踏まえつつ、コロナ情勢により授業形態が変わっていったが、これには先を見据えた対応をしていきたく。これからも精進してまいります。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：川上 生馬
I 研究活動			
1 研究課題：消滅時効制度と私的自治			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「消滅時効期間の合意による変更の判断要素に関する一考察」法と政治 71 巻 1 号（2020 年）307-365 頁		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4）、民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4）、民法Ⅱ（法Ⅰ、昼、後期、2）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	<p>民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4） 遠隔での講義であったことを踏まえ、教科書をレジュメとしても機能し得るものを選択し、各学生の手元に十分な情報がある状態で音声聞いてもらうこととした。出席課題として毎回講義内容のまとめや解釈が必要な問題に関する私見を書いてもらうなどし、知識の定着を図った。また、質問対応においては、研究室での対応だけでなく、メールやリモート会議システムを利用した対応を行い、対面時と変わらぬ環境を提供することを心掛けた。</p> <p>民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4） 遠隔での講義であったことを踏まえ、教科書をレジュメとしても機能し得るものを選択し、各学生の手元に十分な情報がある状態で音声聞いてもらうこととした。出席課題として毎回講義内容のまとめや解釈が必要な問題に関する私見を書いてもらうなどし、知識の定着を図った。また、質問対応においては、研究室での対応だけでなく、メールやリモート会議システムを利用した対応を行い、対面時と変わらぬ環境を提供することを心掛けた。また、パソコン操作等に不慣れな学生に対しては、直接出席課題を提出することを認め、PC環境による不具合が起こらないよう対応した。</p> <p>民法Ⅱ（法Ⅰ、昼、後期、2） 遠隔での講義であり、かつ、応用的な内容も出てくるため、講義音声録音時には特に説明を丁寧に行い、十分理解してもらえるよう心掛けた。出席課題として毎回講義内容のまとめや解釈が必要な問題に関する私見を書いてもらうなどし、知識の定着を図った。また、質問対応においては、研究室での対応だけでなく、メールやリモート会議システムを利用した対応を行い、対面時と変わらぬ環境を提供することを心掛けた。また、パソコン操作等に不慣れな学生に対しては、直接出席課題を提出することを認め、PC環境による不具合が起こらないよう対応した。</p> <p>法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2） 講義の第2回目にディベートを取り入れることで、簡単な質問でも気兼ねなく話せる環境を作り、ゼミ内での議論の活性化を図った。また、各グループごとの判例報告においては、十分に準備期間を取り、一緒に図書館に行ったり、文献を読み解いたりなどすることで、各学生のリサーチ力・読解力の向上を図った。これにより、各班が初回報告とは思えないほど作り込まれたレジュメを基に発表をすることができ、質問内容もより高度なものが出るなど大きな成果が見られた。</p> <p>演習（法Ⅰ、昼、通年、4） 前期中は図書館の閉館等もあり資料収集に苦労したが、資料の取り寄せ方法を伝えたことで、従来と変わらぬ形で卒論執筆を行ってもらえた。ゼミでの発表の3日前には報告資料を完成させ、事前に各ゼミ生にデータを送付するというルールの下でゼミ運営を行ったため、遠隔講義形式であっても十分に質疑が行われ、最終的に完成した卒業論文集もイレギュラーな1年を思わせない程、質の高いものが完成した。</p> <p>社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4） 前期第4回目頃から遠隔での実施となり、なかなか質問が出されない状態であったが、素朴な質問こそ重要な指摘につながるということを十分に理解してもらい、なんとか質問が出る環境が作り出せた。社会科学演習では演習に比べ、問題関心が多岐にわたる傾向があり、各自が自身以外の報告となるとなかなか質問を出せない状況が多々見られたが、報告者の報告後に、こちら側で簡単なまとめを挟み、各自の問題意識との関連性などを示すことで、より深い内容の質問が出されるようになった。最終的には、全員が卒業論文を書き上げることができた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、日仏法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携講座コーディネーター（開催中止）		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	農業協同組合内部監査士受験者研修会講師（三重県農業協同組合）		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

その他の社会活動	
他大学非常勤講師	愛知大学法学部「担保物権法」、愛知大学法学部「相続法」、日本福祉大学経済学部「民法」、日本福祉大学経済学部「専門演習Ⅰ」
3 一言アピール	<p>民法改正により消滅時効制度の意義にどのような変化がみられるのかなど、日本法・フランス法を基に検討を行っていきます。 (研究テーマの応用例：約款取引と私的自治、強行法規と私的自治)</p>

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鎌塚 有貴
I 研究活動			
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制			
2 研究活動実績			
著書	(共著) 『フォーカス憲法－事例から学ぶ憲法基盤』 (2020年、北樹出版) 183-187頁、218-223頁担当。		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：日本国憲法（法1、昼、通年、4）、日本国憲法I（生活、昼、前期、2）、日本国憲法II（生活、昼、後期、2）、日本国憲法（法2、夜、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、憲法訴訟論（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、法学入門（法1、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、編入学試験対策・指導		
教育上の工夫	日本国憲法（法1、昼、通年、4） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	日本国憲法I（生活、昼、前期、2） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	日本国憲法II（生活、昼、後期、2） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	日本国憲法（法2、夜、後期、4） 判例の解説に重点を置き、理解を深めるよう努力した。		
	憲法訴訟論（法1、昼、後期、2） 判例を詳細に分析しながら、実務での憲法解釈の方法を扱った。		
	法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 講義の復習をしながら、現代社会における問題など発展的な課題に取り組んだ。		
	演習（法1、昼、通年、4） 各自報告テーマを選択し、発表した。		
	社会科学演習（法2、夜、通年、4） 学生の自主的な取り組みによる発表形式のゼミを運営した。		
	法学入門（法1、昼、前期、2） 六法の引き方や法学の基礎に十分な時間を割き、他の担当者と連携して授業を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会、日本財政法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 教育と研究を両立できるよう頑張ります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：西川 昇吾
I 研究活動			
1 研究課題：労働協約法理論の比較法研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「書面性を欠く『労働協約の解約』の法的効力論—ドイツ法との比較にもとづく検討」労働法律旬報1961号41～55頁（2020年6月10日）		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：労働法（法1、昼、後期、4）、労働法（法2、夜、後期、4）、社会保障法（法1・生活、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、大学3年次編入指導		
教育上の工夫	<p>労働法（法1、昼、後期、4） 労働法学の正確な知識や概念等を摂取し、それを基盤とした論理展開が理解できるよう、とりわけ法的意義や法的根拠、要件等の伝達に留意した。</p> <p>労働法（法2、夜、後期、4） 受講学生のなかには、社会人経験者も見受けられたことから、労働法理論の解説はもとより、その法的対処・解決の見当が働さうる知識・情報等の伝達を心がけた。</p> <p>社会保障法（法1・生活、昼、後期、2） 社会保障制度の概要を中心としつつも、今後の同制度を担う受講生が、その望ましいあり方についての自己の見解をもてるよう、法的論点の解説に注力した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 検討する争点・論点において確認しなければならない判例・学説の報告と、その後の討論を通じて、論理的思考や自己主張ができる場の構築に努力した。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 労働法における判例の検討を通じて、企業という現場の実情が想像でき、紛争当事者のやり取りの臨場感が再現できるよう、多角的な問いを發した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働事件をどのように解決するかという視点だけでなく、どのような行動をとれば紛争を回避できたかという視点からの討論となるよう、質問等を工夫した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本労働法学会、社会法研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	NPO法人労働問題研究所会員		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>社会法を学ぶことは、みずからの生き方を考えることでもあると解されます。学生一人ひとりが、今後の望ましい労働者像・社会保障制度について、自分なりの見解をもってもらえるよう、研究・教育活動に取り組む所存です。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動			
1 研究課題：環境概念の理論的探究、生活科学についての原論的理解の深化、外来生物問題をめぐる環境思想の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	家政学の対象としての「内部環境」について、家政学原論研究 第54号、pp.14-21、2020年8月 査読有		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）、環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	イラスト部顧問		
学内教育活動 (その他)	一年次クラス担任 オフィスアワー設定、編入学指導		
教育上の工夫	<p>環境論（共通、夜、前期、2） 自然科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年） 生命再生産活動の概念を丁寧に説明し、市場経済の原理的なレベルでの理解を合わせて、現代における生活者の基本課題を理論的に解説している。</p> <p>環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2） 地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。</p> <p>環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年） 毎回視聴覚教材を使用し、環境問題のリアルな理解を図っている。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得たうえで、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、日本家政学会家政学原論部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市廃棄物減量等推進審議会委員（2021年1月～現在に至る）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
環境思想と家政学原論の統合を目指す。 (研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理、家政学から見た獣害問題)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>「医療保障の充実に向けて -新型コロナウイルス感染症への緊急対策から-」『国民医療』No. 346, pp.61-64, 2020年</p> <p>「感染症に強い社会のあり方 -保健・医療・介護の拡充と多様性が反映される社会へ-」『人権と部落問題』No. 73, pp. 36-43, 2020年</p> <p>「公的医療費抑制策の転換へ -医療・介護・地域をめぐる現状から-」『法と民主主義』No. 552, pp. 20-22, 2020年</p> <p>「コロナ禍で明らかになった地域医療の危機」『住民と自治』No. 692, pp. 7-10, 2020年</p> <p>「マイナンバーによる私たちの生活への影響」『福祉のひろば』No. 246, pp. 46-49, 2020年</p> <p>「公立・公的病院の再編・統合計画から地域医療を考える」『医療労働』No. 637, pp. 3-10, 2020年</p> <p>「医療保障の充実に向けて -地域医療構想、公立・公的病院の再編・統合など-」『月刊全労連』No. 281, pp. 1-10, 2020年</p> <p>「問われる自治体の医療行政」『大阪保険医雑誌』, pp. 20-24, 2020年8/9月号</p> <p>「地域医療を守り、蒲原病院をよくするためのアンケート調査結果から」『国民医療』No. 348, pp. 56-65, 2020年</p> <p>「新たな医療提供体制再編下の地域医療に関する研究部会設置の趣旨と問題提起」『国民医療』No. 348, pp. 38-40, 2020年</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究	「地域の医療・介護保障をめぐる政策動向と地域づくり」2020年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論（法1、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ボランティアサークル部顧問		
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスマナー（月曜日3限）、学外演習（自治体、医療機関、福祉施設、労働市場等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	<p>社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。</p> <p>社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。</p> <p>社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。</p> <p>社会福祉論（法1、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。</p> <p>地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての実習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

<p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。</p>	
<p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3） 実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者や職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。</p>	
<p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>	
<p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>	
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療福祉政策学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>亀山市議会「地域医療において自治体病院が果たしていくべき役割について」2020年8月</p>
学外審議会委員等	<p>三重県行政不服審査会委員、三重県国民健康保険運営協議会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、松阪市地域包括ケア推進協議会会長、松阪市民病院のあり方検討委員会副委員長、四日市市市民協働促進委員会副委員長、桑名市障害者自立支援協議会会長、津市NPOサポートセンター理事、津市社会福祉協議会顧問、日本医療福祉政策学会副会長、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所理事、日本高齢期運動サポートセンター理事</p>
学外講演会講師等	<p>社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回引き受けている。</p>
その他の社会活動	<p>医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿</p>
他大学非常勤講師	<p>名城大学経済学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、三重県立看護大学「保健福祉行政論」、四日市大学経済学部「社会福祉概論」、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科「医療経済特論」、岐阜大学「地域福祉論」</p>
<p>3 一言アピール</p> <p>地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々で行っています。また、社会保障制度をわかりやすく話すとともに、多様な社会をどうつくるか、をテーマに教育・研究活動を行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関するワークショップや計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	木下誠一、藤枝秀樹、今井正次：「中心市街地における大型空き店舗を転用した公共複合施設の共用空間の潜在利用 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その5」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2020.9、pp.827-828 藤枝秀樹、木下誠一、今井正次：「中心市街地における大型空き店舗を転用した公共複合施設の共用空間の利用者意識 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その6」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2020.9、pp.829-830		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：居住計画論（生活、昼、前期、2）、居住福祉論（生活、昼、後期、2）、住生活論（生活、昼、後期、2）、建築製図基礎（生活、昼、前期、2）、住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活、昼、前期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。昨年度から、授業の冒頭で前回提出されたレポートの中から優れた評価のものを紹介し解説するようにしているが、自由記述を見る限り、学生にとっても参考になっているようなので、今後も続けてみようと思う。</p> <p>居住福祉論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。講義は遠隔で実施したが、レジュメに対する良い評価を得た一方で、「学生の質問や意見」に対する評価が低かった。質問があった学生には個別にメールで回答したが、今後は他の学生と共有するなど、遠隔授業における質問等の対応の仕方を考えたい。</p> <p>住生活論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。講義は遠隔で実施したが、「学生の質問や意見」に対する評価が低かった。質問があった学生には個別にメールで回答したが、今後は他の学生と共有するなど、遠隔授業における質問等の対応の仕方を考えたい。</p> <p>建築製図基礎（生活、昼、前期、2） この授業は、自身が初めて担当する科目であったが、「わかりやすさ」の評価が低かったため、今後、教材や説明等の改善を図っていきたい。また、コロナ感染防止の観点から、2教室に分けて実施し、学生の個別指導も極力控え、全体を見守る形での指導となったため、学生個々の理解度への対応が十分できなかった。この点についても、今後、改善を図りたいと思う。</p> <p>住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。コロナ感染防止のため、実習室と普通教室の2教室に分け、ZOOMで同時に講義を行ったが、空間や備品面で実習環境に格差が生じたこととなった。公平性をもたせるため、教室を週替わりでローテーションを組んだが、他に改善方法がないか検討していきたい。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させ、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している。コロナ感染防止のために授業時間が短縮され、対面による個別指導にも制約があったが、一般的に良好な評価が得られた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県開発審査会委員、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、鈴鹿市景観審議会審査部委員、鈴鹿市景観アドバイザー、松本市景観アドバイザー、津市景観アドバイザー、津市景観審議会委員、日本建築学会東海支部三重支所運営委員、日本建築学会設計競技支部審査委員、三重県建設業協会三重県建築賞審査委員長、三重県建設技術センター理事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	高田短期大学キャリア育成学科「生活の理解Ⅲ」		
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。 （研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：教授	氏名：橋本 博行
I 研究活動		
1 研究課題：食物アレルギー対応食等への食物アレルゲンの混入防止に関する研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究	(公財)ニッポンハム食の未来財団 2020年度研究助成（共同研究）2021年5月31日まで 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）課題番号 18K02266 給食施設での粉体食物アレルゲンの飛散特性の解析と混入防止対策 2018-2020（2021）年度	
II 教育活動		
1 担当科目：生活科学概論（生活、昼、前期、2）、食品学（食栄、昼、前期、1）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、食品学衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、特別演習（食栄、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1、2年次生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）	
	食品学（食栄、昼、前期、1） 講義については対面授業を中心に実施した。毎回、教科書に記載のある重要項目について、表や図まとめた授業プリントを配布して講義を行った。講義の流れは、教科書を使用したその回の説明内容の確認→参考プリントによる講義内容に関連する化学的基礎知識の復習→授業プリントを使用した講義→ゴロ合わせ等を活用した重要用語の暗記→講義のまとめの順で行った。	
	食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 講義については対面授業を中心に実施した。当日の講義範囲の教科書の章の重要項目と最低限理解し暗記すべき項目をまとめた授業プリントと、講義内容に関連した食中毒事件の概要をまとめたプリントを配布した。当日の講義内容と関連付けることにより、学生の授業内容に関する興味を引くように工夫した。	
	食品学実験（食栄、昼、前期、1） 実験は、学生を半数ずつに分け、2つ実験室で実施した。最初の実験科目なので、化学実験を安全に行う方法や練習を繰り返した後に、食品に関する実験を行うようにした。食品学の講義内容に相当する実験項目を選んで実験を行うことにより、食品学の重要項目について実験を通じて理解を深めてもらうようにした。	
	食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 講義は対面と、遠隔の2つの方法で行った。食品衛生学Ⅰでの学習を基礎として食品衛生に関わる内容全般について解説した。特に、給食提供時の食中毒防止で重要な大量調理施設衛生管理マニュアルについて、具体的な食中毒防止手法の方法を理解し行動できるように解説した。	
	食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1） 学生を半数ずつに分け、2つ実験室で実施した。食品衛生学Ⅰ・Ⅱで学習した食品衛生学の知識を手法として理解してもらうために、講義内容を実験で経験できるような実験内容を実施した。実験内容は、微生物実験と理化学実験を行った。実験ではスーパー等で販売されている食材を使用することにより、学生に実験に興味を持ってもらえるように工夫した。	
	食品の機能（食栄、昼、後期、2） 食品中に含まれる生体調節機能を持つ食品成分について解説した。特に、糖尿病や高血圧等の疾病の成り立ちについて、図示を含めた講義プリントを作成し、食品成分による疾病予防効果が理解できるように配慮した。	
	特別演習（食栄、昼、通年、4） 研究助成の内容の小麦パターの洗浄時のスポンジたわしへの付着性や二次汚染の可能性について実験を行った。後期には一部、遠隔による授業を行った。	
	生活科学概論（生活、昼、前期、1） 講義については遠隔授業によりオムニバス形式で実施した。「第一部：『いのち』と『くらし』を科学する」について6名の生活科学専攻教員による講義、「第二部：『食』と『健康』を科学する」は、6名の食物栄養学専攻の教員の講義であった。提出課題の確認による出席管理を早期から行い、未提出者については担任指導等により、長期欠席（未提出）学生を除き単位未修得者が出ないように努めた。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本アレルギー学会、日本農芸化学会、日本食品衛生学会、日本家政学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>食物アレルギー対応食等の意図しない食物アレルギーが混入しない食事提供のために、小麦タンパク質の調理器具への付着性や二次汚染について研究を行っています。</p> <p>(研究テーマの応用例 : 食物アレルギー対応食の調理時における食物アレルギーの混入防止対策)</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動		
1 研究課題：地方都市における持続可能な集約型都市構造、多核ネットワーク型都市構造、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果		
2 研究活動実績		
著書	『コンパクトシティの拠点づくり 魅力的な場をつくる都市計画とデザイン』 2020.10.20 学芸出版社 分担執筆 「04 拠点内連鎖型再開発 玉突き跡地活用による公共施設の連鎖型建替 諫早市：中心市街地への民間誘導」 pp.34-37、「20 立地適正化計画のあり方 立地適正化計画に拠点を位置付ける 多核ネットワーク型都市構造を実現する拠点の形成」 pp.94-99	
論文	自家用有償旅客運送における福祉有償運送の現状と課題 一津市福祉有償運送を事例として一 三重短期大学生生活科学科紀要 第69号 2021年3月 pp.1-9 コミュニティサイクル導入地域における課題への対策と効果 北村叶羽、小野寺一成 三重短期大学生生活科学科紀要 第69号 2021年3月 pp.11-26	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「人口減少下での集約型都市構造再編と拠点形成に向けた研究（その2） 一地方都市における実践と課題一」2020年度	
II 教育活動		
1 担当科目：まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、1）、住環境計画（生活、昼、前期、2）、地域政策論（食栄・生活・法1、昼、前期、2）、自治体行政特論（食栄・生活・法1、昼、前期、2）、まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1）、地域環境学（生活、昼、後期、2）、都市計画論（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市一身田寺内町の館及び寺内町の視察（校外演習v.1）、犬山市博物館明治村 世界的建築家フランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル他、建築遺産の視察（校外演習v.2）、津市 津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察（校外演習v.3）を実施	
学内教育活動 （その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：火曜日13:30～15:00、後期：火曜日12:30～14:00、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究と発表会の指導、及び「2020年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集。特に、紀要論文投稿発表者への論文指導。また、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接試験の指導。加えて、一身田「寺内町の館」運営委員会への都市計画ゼミ卒業研究報告（テーマ：インスタグラムの活用による「一身田寺内町活性化計画」）2021.1.19.	
教育上の工夫	<p>まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、1）</p> <p>今年度は、新型コロナ禍のため、グループワークではなく個人設計とした。結果として、各自が設計に取り込める時間が増えることとなった。現地調査、テーマ、コンセプトなどを検討する際、出来る限り参考資料を配布するとともに具体的な事例を紹介しながら説明している。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、当授業は1単位1時限であることから、履修申告者が増えてきた場合は、時間コマ数を増やすなどを今後の検討課題としたい。</p> <p>住環境計画（生活、昼、前期、2）</p> <p>講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。なお、一昨年度「プリントはカラーの方が絶対いい。」との意見があり、一昨年度度の途中、デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p> <p>地域政策論（食栄・生活・法1、昼、前期、2）</p> <p>今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。なお、一昨年度「途中からカラー印刷になり非常に見やすかったです。初めて知る内容が結構ありました。地域の活性化に役立てたいです。」との意見があることから、一昨年度デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p> <p>自治体行政特論（食栄・生活・法1、前期、2）</p> <p>この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義であるが、どの講義も履修者が増加すると総合評価が下がる傾向にあることが課題である。毎回の講義内容を履修ノートとして提出するとともに、津市議会の傍聴レポートを課題としている。講演者が話しやすく学生が質問し易い状況をつくることを心掛けたい。</p> <p>まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1）</p> <p>今年度は、新型コロナ禍のため、グループワークではなく個人設計とした。結果として、各自が設計に取り込める時間が増えることとなった。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたいが、例年、受講者数が多いと評価が下がる傾向にある。2年生後期の建築士を目指した授業であることから、2年生前期講義のまちづくり設計Ⅰ履修者に限るなどの適正な受講者数も課題としたい。</p> <p>地域環境学（生活、昼、後期、2）</p> <p>受講人数が多くなったり、大教室で講義を行った場合、評価が下がる傾向にある。今後もパワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、「学生の興味を引く工夫」を施し、最新の情報などを取り入れ、「知的興味」を持てるようにしたい。</p> <p>都市計画論（生活、昼、後期、2）</p> <p>今後も、新しい情報を加えるとともに「わかりやすさ」に努め、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて「興味を持てるような工夫」をしたい。やはり、履修学生が増えた時の評価が課題となる。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

<p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）</p> <p>授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。今年度は、新型コロナ禍のなか、ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、犬山市博物館明治村の視察を行った。</p>	
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>一身田「寺内町の館」運営委員会への都市計画ゼミ生卒業研究報告（テーマ：インスタグラムの活用による「一身田寺内町活性化計画」）2021.1.19</p>
学外審議会委員等	<p>一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市拠点デザイン小委員会委員（2019.4～）、一般社団法人日本建築学会 東海支部 常議員（2020.6.1～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会幹事（2019.4～）、三重県公共事業評価審査委員会（技術（都市計画））（2020～）、三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）、津市福祉有償運送運営協議会委員（会長）（2014～）、四日市市開発審査会委員（都市計画・建築）（2016～）、尾鷲市都市計画マスタープラン見直し策定委員長（2020～）</p>
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画論の共存、住民参加型計画の効果、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>（研究テーマの応用例：持続可能な多核ネットワーク型都市構造の検討、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：阿部 稚里
I 研究活動			
1 研究課題：和食に関する研究、栄養教育の有効性に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Masayo Sanada, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Chisato Abe, Norie Suzuki, Ayaka Inden, Takumi Kato, and Hiroshi Shimokata. Associations of dietary diversity with the prevalences of depression and suicide: A 26-year global comparative study. <i>Nagoya Journal of Nutritional Science</i> 6. 1-8. (2020). 査読有 阿部稚里. 地域社会を担う人材育成を目指した本学栄養教諭課程の学内養成および教育実習の取り組み. 三重短期大学地域問題研究所年報第25号. 1-11. (2020).		
その他			
学会等報告	阿部稚里, 今井具子, 瀧崎彩也子, 宮本恵子, 川瀬文哉, 白井禎朗, 位田文香, 加藤匠, 眞田正世, 鈴木規恵, 下方浩史「和食スコアと全癌発症率および死亡率との関連—27年間の国際比較研究」第27回日本栄養改善学会学術総会（誌上開催）2020年9月 その他共同発表者として、国内学会8報		
共同研究 助成研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、栄養教育論Ⅱ（食栄、昼、後期、2）、栄養教育論実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、公衆栄養学（食栄、昼、後期、2）、管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスパワー、編入学指導等個別相談		
教育上の工夫	<p>栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2） 栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートを用い、学生の教育方法への理解を深めるのに努めた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習を行うためのサポートを行った。</p> <p>栄養教育論Ⅱ（食栄、昼、後期、2） 遠隔授業であり、学生の理解度など直接顔を見て把握することはできなかったが、毎回の課題提出では、大多数の学生が講義内容をしっかり理解できているようであった。栄養士としての基本的な知識が得られるように努めた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 従来より回数が少なかったため、短い期間で課題をこなすのは大変だったと思うが、学生もよく調べて媒体等を作成してくれた。課題のやり取りはGoogle Classroomを使用した。概ねスムーズだったと思う。実際に学生が内容を発表することはコロナ禍では難しかったが、作成した媒体や発表原稿の評価は行えた。他の学生の媒体や発表原稿を見て学ぶ点が多かったとの感想も多く、自分以外の視点を学ぶよう促した。</p> <p>公衆栄養学（食栄、昼、後期、2） 遠隔授業であり、学生の理解度など直接顔を見て把握することはできなかったが、毎回の課題提出では、大多数の学生が講義内容をしっかり理解できているようであった。遠隔授業は学生からの質問と回答を他の学生に共有するのも簡単であり、講義全体の理解を深めるよう努めた。</p> <p>管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2） 各教員によるオムニバス講義を遠隔授業で行った。大多数の履修学生は、将来的に管理栄養士を目指しているため、熱心に学んでいる様子が伺えた。管理栄養士国家試験の過去問題もしっかり解くよう促した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本末病学会、日本ビタミン学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	ベジマルファクトリーレシビ開発へのアドバイザー 「食事をバランスよく食べよう！」（講演）、アスト津、2021年3月		
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与、日本栄養改善学会評議員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。 (研究テーマの応用例：子どもに対する和食教育について)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究	2020年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2）</p> <p>今年度は遠隔講義形式になったので、映像を使うことができず、板書もできないことをふまえ、講義の構成を再考し、内容を変更したりシラバスの順番も組み替えたりしました。本などの資料紹介も通常よりも具体的にこまめに行いました。また、講義の初めにはその日の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）</p> <p>今年度は遠隔講義形式でした。板書や学生とその場でやりとりができないことを踏まえ、講義の構成を再考し、シラバスの順番も組み替えました。歴史を知るためにはまず、「社会福祉」の概要をつかまなければなりません、1年生の受講生も一定数いるため、歴史を扱う前に社会福祉の概要についての講義も行うなど工夫をしています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）</p> <p>今年度は、遠隔での代替実習となったため、特に厳しい状況にある施設の実習担当者との連絡を密にとり、できるだけ先方の負担が大きくなるように努めました。また、1年生は初めての実習であることに加え遠隔となるので、実習内容について実習担当者とも内容についても精査しました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）</p> <p>実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。今年度は、遠隔での現場実習となったので、通常の実習指導だけではなく遠隔で実習を行えるように、プログラムを考え、学生がインターネットを通して実習先とやりとりをするための準備を重ねました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（SS、昼、前期、3）</p> <p>今年度は、遠隔での代替実習となったため、特に厳しい状況にある施設の実習担当者との連絡を密にとり、できるだけ先方の負担が大きくなるように努めました。2年生は実践的な内容が求められるため、学生が遠隔実習においても課題を焦点化できるように、また、問題意識を自分で深められるよう、代替実習中のコメントなどを行いました。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4）</p> <p>社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨めるためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的に行うようにしました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4）</p> <p>ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在しますが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導についても行いました</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）</p> <p>年度始めから遠隔講義で学生生活を送っているため、ゼミが仲間作りの場にもなるように、意見交換の時間を普段よりもより多くつくり、新聞記事の紹介や今日の一言などを通してひとりひとりが自分を表現できる場を特に重視するようにしました。また、ゼミの内容についても、学生から積極的に提案をするように求めてとりくみました。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害者学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員、三重県障がい者虐待防止対策支援事業に伴う専門家チーム構成員、亀山市新庁舎整備基本計画等検討委員会委員、三重県とこわか団体・三重とこわか大会実行委員会全国障害者スポーツ大会専門委員会ユニバーサルデザイン部会委員、社会福祉審議会委員		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

学外講演会講師等	四日市男女共同参画研究所 講演「男は仕事 女は家庭という役割分担意識の弊害」（2021年1月23日）
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「社会福祉」「社会福祉概論」、日本福祉大学教育・心理学部「関係行政論」
<p>3 一言アピール</p> <p>障がいのある人が社会生活を送る時に障壁となるものは具体的に何なのかを分析しながら、皆が生きやすい社会の仕組みについて考察しています。また、女性の貧困や労働環境についても関心を持っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：ユニバーサルデザインのまちづくり、男女共同参画のまちづくり 等）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>「介護保険制度の20年、制度改正の歩みと今後の課題」『国民医療』347, pp18-25, 2020年8月。 武田 誠一, 松田 佳浩, 川岸 健太郎, 上村 博一, 工藤 暢久 著「地域包括支援センターにおける「地域課題の政策提言」に関する研究」『地研年報』25, 73-91, 2020年9月</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生前期のクラス会を毎月開催し、学生の学修・生活指導を行った。通年でオフィスワーカー（週1回 1コマ）を実施し、ゼミ生、科目履修者の学修指導を行った。編入対策として、三重大学人文学部法律経済学科の指定文献の読書会を開催した。		
教育上の工夫	<p>医療福祉論（生活、昼、前期、2） 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。 今後は、多様なメディアを活用した授業展開を検討したい。</p> <p>社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4） ソーシャルワークを理解できるように事例を多く取り入れた。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4） 少人数であるため、グループワークを多用した。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		
3 一言アピール			
<p>福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。</p> <p>（研究テーマの応用例：ケアプラン（居宅介護支援計画）の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域ケア会議の円滑な運営に関する研究）</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
I 研究活動			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究 ソーシャルメディアを活用した食生活・意識向上に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	駒田亜衣、中澤菜穂、山本涼乃、清田桃華、村井聖奈、舘美香、木下なつこ「特定健診実施者の10年間の推移」三重短期大学生活科学研究会紀要、No.68、pp9-16（2020.3） 駒田亜衣、中井晴美「津ぶらんど化推進品目を使用した大量調理向けの献立の考案」三重短期大学地域問題研究所年報、第25号、pp93-99（2020.9）		
その他	令和元年度三重短期大学 共同研究報告書「平成30年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」（2020.7）		
学会等報告	駒田亜衣、岡田ひろみ、三根登志子、梅原頼子、古田佳奈子、井川裕子、大槻誠、ソーシャルメディアを活用した健康意識と食生活の向上に関する介入研究、第67回日本栄養改善学会総会、2020.9（誌上報告）		
共同研究 助成研究	共同研究「特定健康診査・特定保健指導の解析」（津市保険医療助成課） 2020年度地域問題研究所研究員「津市における平成30年度特定健康診査・特定保健指導の解析と11年間の推移」 やずや食と健康研究所2019年度助成研究「ソーシャルメディアを活用した若年層の健康意識と食生活の向上に関する介入研究」（2021.12まで）		
II 教育活動			
1 担当科目：調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食計画実務論（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>調理学（食栄、昼、前期、2） 食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。 2020年度は前期後半から遠隔授業となったため、講義音声に合わせて分かりやすい配付資料の作成に努めた。小テストも遠隔にて実施した。</p> <p>調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 前期の実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。 2020年度は2グループに分けて実習を行った。調理実習の回数が例年と比較して少なくなったため、レポートによる考察や献立作成がしっかり習得できるよう配慮した。</p> <p>給食計画実務論（食栄、昼、後期、2） 大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。 2020年度は厨房実習の回数を減らしたため、自宅での調理や栄養価計算、パワーポイントでのまとめなどの課題を増やして対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。 2020年度は校外実習の受け入れが変更になった施設もあったため、実習先と密な連携をとり、一部学内実習で対応した。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 本学の政策研究・研修に学生も参加し、保育所に必要な災害時献立について検討した。保育所に提供される乾パンの利用レシピを考案し、報告書に掲載した。また、2021年に開催予定の「三重とこわか国体」のアスリート用弁当のメニューを3種類考案した。どちらの活動も、将来的に栄養士として働くうえで有効な内容であると考え、研究テーマとした。データのまとめ方や集計手法など、パソコン操作についても積極的に指導を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

2 社会活動実績	
地域連携事業	「地域連携カフェHONOBUNONO」の運営（献立計画・給食運営） 「世界の料理講座（調理実習）」の開催 津市国際交流協会 高大連携授業講座「製菓実習」講師の受け入れ 相可高校
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員 津地域栄養管理ネットワーク研究会委員
学外講演会講師等	津市ヘルスマイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「おいしく食べる工夫」(2021年3月) くらし安心講座講師(生活共同組合コープみえ)「コロナ禍において『食と健康』を考える」(2021年3月)
その他の社会活動	三重短期大学出前講座、食の安全・安心研修会講師(三重県生活共同組合連合会)「家族の健康を守るために考えたい食生活」(2020年11月)
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「公衆栄養学」担当
3 一言アピール	
<p>食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査・特定保健指導や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。</p> <p>（研究テーマの応用例： 有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文	蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「同時通訳における順送り方略の適用に影響する起点言語の特徴」, 通訳翻訳研究, No.20, pp133-146, 2021年2月 Zhongxi Cai, Koichiro Ryu, Shigeki Matsubara: "What Affects the Word Order of Target Language in Simultaneous Interpretation", Proceedings of International Conference in Asian Language Processing, pp.135-140.		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 基盤研究 (C) 「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」(代表者) (課題番号: 17K02765)		
II 教育活動			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ(共通、夜1クラス、前期、1)、情報処理実習Ⅱ(共通、昼2クラス、後期、1)、数理科学(生活、昼、前期、2)、情報と社会(共通、昼、前期、2)、情報と科学(共通、昼、後期、2)、情報と科学(共通、夜、後期、2)、居住環境特別演習(生活、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ダンス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任(居住環境コース)、4年制大学への編入学を目指す学生への数学、情報等の個別指導を実施した。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ(共通、夜、前期、1) 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。授業回数が少ない中で、課題を増やすなどして、教育の質を維持した。</p> <p>情報処理実習Ⅱ(共通、昼2クラス、後期、1) 情報処理実習Ⅱは、情報処理実習Ⅰで基礎的な能力を身に付けている学生が受講しているため、学生によるレベル差は情報処理実習Ⅰほど大きくないため、比較的難易度が高い課題に対しても、学生が十分に対応できていた。RESASを用いて実データをもとに現実世界の問題を解決することを考える授業にしたので、学生も意欲的に取り組んでいた。</p> <p>数理科学(生活、昼、前期、2) 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。講義期間外には、講義内容に関連した内容の勉強会も開催した。</p> <p>情報と社会(共通、昼、前期、2) 難しい内容を理解させるために、分かりやすい図を増やすなど資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報と科学(共通、昼、後期、2) 受講生の人数が多いため、講義内で理解度を確認する小テストを実施した。遠隔授業で実施したため、プログラミングの実習は実施できなかったため、その分、他の内容の説明を充実させた。</p> <p>情報と科学(共通、夜、後期、2) 遠隔授業で実施したため、プログラミングの実習は実施できなかったため、その分、他の内容の説明を充実させた。</p> <p>居住環境特別演習(生活、昼、通年、4) 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究(プロジェクト)に取り組んでおり、2020年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作、WordPressを用いたHP制作、音声対話システムの研究動向調査などを実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	小中学生向けプログラミング講座(新型コロナ禍のため中止)		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

3 一言アピール

プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。
また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に開催していく予定です。

三重短期大学教員研究・教育業績 (2020年度)

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：高橋 彩
I 研究活動			
1 研究課題：青年期のアイデンティティ形成、親子関係、道徳的判断			
2 研究活動実績			
著書			
論文	短期大学生のアイデンティティ発達と進路選択時の母親とのコミュニケーション 三重短期大学地域問題研究所地研年報, 第25号, pp.61-72. 2020年9月 高校生の情報管理方略と精神的自立 三重短期大学紀要, 69, pp.27-36. 2021年3月		
その他			
学会等報告	女子青年のアイデンティティ発達と進路選択時の母親とのコミュニケーション (ポスター発表) 日本パーソナリティ心理学会第29回大会発表論文集, p.54. 2020年9月 チケット高額転売に関する大学生の道徳的判断 (ポスター発表) 日本教育心理学会第62回総会大会発表論文集, p.56. 2020年9月		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：心理学(生活・法1、昼、前期、2)、発達心理学(生活、昼、前期、2)、心理学基礎実験(生活、昼、前期、2)、福祉心理演習(生活、昼、通年、4)、心理学概論(生活、昼、後期、2)、発達と学習(生活、昼、後期、2)、心理学研究法(生活、昼、後期、2)、福祉心理基礎演習(生活、昼、後期、2)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	1年生クラス担任(前期)、オフィスアワー(火曜日15:30-17:00)、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接指導を行った。		
教育上の工夫	<p>心理学(生活・法1、昼、前期、2) 指定テキストとクラスルームで配布したpdfファイル、音声ファイルを用いて遠隔授業を行った。配布資料の図表は引用先を示し、学生自身がさらに調べられるようにした。学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し、結果の見方などを解説した。</p> <p>発達心理学(生活、昼、前期、2) 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業で8回目までを行い、9回目からは指定テキストとクラスルームで配布したpdfファイル、音声ファイルを用いて遠隔授業を行った。対面時はDVDを用いて、乳幼児の言語発達、認知発達への興味や理解が深まるように工夫した。</p> <p>心理学基礎実験(生活、昼、前期、2)※改行しました。 心理学実験の実験者と実験参加者の両方を体験しながら、データ収集、分析、レポート作成が身につくように、学生のペースに合わせた進度で授業計画を進めた。特に提出されたレポートの添削を個別に行い、レポートの基本的な書き方について習得できるようにした。7つの実験課題を行うことが出来た。</p> <p>心理学概論(生活、昼、後期、2) 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業で行った。テキストにない図や写真をパワーポイントで提示し、DVDも利用することで理解が深まるようにした。小課題や感想、質問を書くことで、学生が自分自身の体験と教科書の知識との関連を意識できるように心がけた。</p> <p>発達と学習(生活、昼、後期、2) クラスルームで配布したpdfファイルと音声ファイルを用いて遠隔授業を行った。従来の教育心理学で扱う学習理論や動機づけ、自尊感情、認知発達に加えて、遺伝と環境、脳と発達など、人間の発達を考える上で重要なテーマを取り上げた。学校教育における自分自身の学びの在り方について振り返る感想が見られた。</p> <p>心理学研究法(生活、昼、後期、2) クラスルームで配布したpdfファイルを用いて遠隔授業を行った。心理学の代表的な研究方法である質問紙法、面接法、観察法、SD法を取り上げた。質問紙法は個人で実際に質問項目を作ったものを、教員がまとめて全員に配布し、フォームで回答データを提出させた。そのデータを再度配布し、学生が個別にレポートにまとめた。面接法では質問項目を各自が考え、面接者となり友人やきょうだいに対して面接を行った。観察法ではYouTubeを利用して幼児の行動観察を行い、時間見本法を実施した。学生は自分で方法を工夫し、データの提出も期限を守ることが出来た。</p> <p>福祉心理基礎演習(生活、昼、後期、2) 日本心理臨床学会の発行する『心理臨床の広場』と、日本心理学会の発行する『心理学ワールド』から、学生自身がそれぞれ1つのテーマを選び発表を行った。各自が作成した発表資料とその解説を基に質疑応答を行うことで、心理学の幅広い研究テーマについての知識を共有することが出来た。</p> <p>福祉心理演習(生活、昼、通年、4) 学内の質問紙調査の実施が困難なことから、卒業論文を展望論文の形でまとめることを目指した。モデルとなる論文を全員で読み、論文から目的、著者の主張、考察、今後の課題を読み取ることを行った。論文の検索の仕方を解説した後、各自が卒業論文として関心のあるテーマに関する本や論文を集める作業を行った。後期は卒業論文のテーマに沿って各自の進捗を確認し指導した。1月中に卒業論文を完成させ、最終回には発表会を行うことができた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本青年心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座「自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学」久居高等学校(2021年1月)		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

学外審議会委員等	
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	大谷保育協会「発達心理学1・2」
<p>3 一言アピール</p> <p>青年期のアイデンティティ発達、親子関係、道徳的判断に関心をもっています。引き続き、青年の自律性の発達を社会的領域理論から検討していきます。また、社会における不平等への道徳的判断について検討していく予定です。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績 (2020年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：講師	氏名：相川 悠貴
I 研究活動			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、糖代謝異常を予防する食品、登山時の生理的変化			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>関 和俊、相川 悠貴、福地 かおり、小木曾 陽介、吉川 明里、枝元 香菜子、藤原 紗音、下村 有佳里、堀 天、高木 祐介。伊吹山初登山者におけるガイド同行登山が主観的運動強度および心理学的指標に及ぼす影響。ウォーキング研究 24：19-24。2021年1月。(査読有)</p> <p>高木 祐介、福地 かおり、小木曾 陽介、吉川 明里、下村 有佳里、堀 天、藤原 紗音、坪田 周介、枝元 香菜子、相川 悠貴、関 和俊。若年成人男女の日帰りでの伊吹山登山時における肺機能指標の変化について。ウォーキング研究 24：13-18。2021年1月。(査読有)</p> <p>Aikawa Y, Wakasugi Y, Yoneda M, Narukawa T, Sugino K, Yamashita T, Yamada N, Ohtsuki M. Effect of Corchorus olitorius on glucose metabolism, lipid metabolism, and bone strength in a rat model of obesity with hyperphagia. J Ana Bio-Sci. 9(1):7-14. 2020年12月。(査読有)</p> <p>Takagi Y, Seki K, Ogiso Y, Kobuchi T, Kawagishi T, Ando Y, Fukuchi K, Tsubota S, Yoshikawa A, Aikawa Y, Yamada N. Changes in urinary catecholamine, heart rate, blood pressure and double product during ascent of one-day Mt. Fuji hiking in Japanese young males. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine. 9(3):143-148.2020年6月。(査読有)</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究	科研費 若手研究「走運動と食餌量制限によるエネルギー不足状態における筋質の評価」(代表者) (課題番号：JP20K19531)		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：解剖生理学(食栄、昼、前期、2)、解剖生理学実験(食栄、昼、後期、1)、運動保健学(食栄、昼、後期、2)、健康管理概論(食栄、昼、前期、2)、生化学実験(食栄、昼、前期、1)、校外実習事前事後指導(食栄、昼、通年、1)、給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、特別演習(食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	陸上競技部顧問、サッカー部顧問、硬式テニス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	<p>解剖生理学(食栄、昼、前期、2) 人体を構築する器官・臓器・組織の形態・構造・働きについて、栄養の消化吸収や栄養士の疾病対策に特にかかわりの深い消化器を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。一部では、遠隔授業を実施した。</p> <p>解剖生理学実験(食栄、昼、後期、1) 人体の構造と機能に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。自身の身体を使った実験や、日常では観察することができない臓器切片の観察を行わせ、理解を深めさせた。</p> <p>運動保健学(食栄、昼、後期、2) 健康のために有効な運動の知識を身に付けさせるため、基礎的な内容に加えて、最新の知見を紹介した。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。遠隔授業を実施した。</p> <p>健康管理概論(食栄、前期、2) 健康管理の制度について、栄養士が関連する内容について、ライフステージ毎の知識を身に付けさせた。学生の興味を引くため、最新の社会ニュースや動画を用い、学生でも用いられる制度の紹介を行った。授業毎に小テストを行い、知識の定着度を確認した。一部では、遠隔授業を実施した。</p> <p>生化学実験(食栄、昼、前期、1) 生化学に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。一部では遠隔授業を実施した。試薬を用いて、実験の基礎を身につけさせつつ、生体内で起こる化学反応を実験室で調べた。</p> <p>校外実習事前事後指導(食栄、昼、通年、1) 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1) 校外実習の調整、巡回を行った。</p> <p>特別演習(食栄、昼、通年、4) 骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養・食糧学会、日本スポーツ栄養学会、登山医学会			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

2 社会活動実績	
地域連携事業	高大連携授業出前講座「牛乳の等電点沈殿」2020年10月 みえアカデミックセミナー2020「健康のための運動と食事」2020年8月 高校ハンドボール部栄養サポート2020年12月～
学外審議会委員等	
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	名古屋芸術大学「健康スポーツ（レクスポ）、健康スポーツ（ネット型スポーツ）」 鈴鹿大学短期大学部「基礎栄養学」 三重大学「陸上競技、スポーツ健康科学」
3 一言アピール	
非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて解明していきます。 (研究テーマの応用例：健康教室の実施)	

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：講師	氏名：杉野 香江
I 研究活動			
1 研究課題：ビタミンDの欠乏状況と身体機能およびメンタルヘルスに関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	服部映里、生川卓弘、杉野香江、梅原頼子、堀田千津子「栄養士・管理栄養士課程の学生における調理技術の検討」鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 第3号 313-322 (2020)		
その他			
学会等報告	杉野香江、山下剛範、寺島徹、若杉悠佑、近藤妃敏、加藤尊「運動習慣のある中高年女性の骨密度と骨格筋量および栄養摂取量の関連」第67回日本栄養改善学会 (2020)		
共同研究 助成研究	令和2年度豆類振興事業「小豆ゲルの利用に関する研究」共同研究		
II 教育活動			
1 担当科目：生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、栄養学（食栄、昼、後期、2）、食生活論（生活、昼、後期、2）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）食栄2年生就職活動指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>生化学（食栄、昼、前期、2） 高校で生物や化学を十分に学んでいない学生でも理解しやすいよう、生物、化学の基礎的内容を取り入れて学生の反応を見ながら授業を進めた。また、書き込み式の資料を使用することで、理解しやすいよう工夫した。</p> <p>ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2） 講義形式が、対面、2教室利用の対面（半遠隔）、遠隔と変更が続き、3パターンでの授業実施となった。その都度その環境に応じて話すスピードや聞き取りやすさ、スライドのみやすさを工夫した。また講義内容では、献立例の写真等を取り入れることで、学生の興味を引く工夫を行った。</p> <p>栄養学（食栄、昼、後期、2） 遠隔授業となったため、教科書以外に配布資料にも説明を多く加えるなど工夫し、話し方は、聴きやすいようゆっくり話すことを心掛けた。また、音声は毎回編集し、受講しやすいよう工夫した。</p> <p>食生活論（生活、昼、後期、2） 複数の専攻の学生が受講することから、栄養学や食品学の入門の内容を丁寧に講義している。食に関する社会問題や、世間で見かける健康情報などの身近な話題に触れることで、学生の興味を引く工夫をしている。遠隔授業となったため、学生が受講しやすいよう、話すスピードに注意し、音声は毎回編集し、受講しやすいよう工夫した。</p> <p>栄養学実験（食栄、昼、後期、1） 栄養素の特徴や消化や代謝についてなど、栄養学の講義で学んだ知識をより深めることができる実験・演習内容にしている。実験を行うだけにとどまらず、データについて十分に考察できるようにしている。</p> <p>調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1） 各ライフステージにおける、食事摂取基準に応じた献立作成を行い、実際に自分の献立を調理できるようなスケジュールにしている。また、食材の調理性、行食事の応用など、幅広い体験ができるよう工夫している。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） ビタミンDの欠乏状況とメンタルヘルスに関する調査研究をテーマに、演習を行った。調査票の作成、食事調査の解析、調査結果の分析手法など、少人数制である利点を生かし、丁寧に指導を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1. 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、骨粗鬆症学会、体力医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	世界の料理講座（調理実習）の補助		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
骨や筋肉をはじめとする身体機能の維持やメンタルヘルスは、生涯健康な生活をおくる上で重要です。身体機能の維持やメンタルヘルスに関連する食習慣、生活習慣について、調査、検討しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：助教	氏名：飯田 津喜美
I 研究活動		
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究、ササゲ属マメに関する研究、食文化に関する研究		
2 研究活動実績		
著書	共著「伝え継ぐ日本の家庭料理」シリーズ、(一社)日本調理科学会、農山漁村文化協会 No.7「魚のおかず」2020年6月、No.2「どんぶり・雑炊・おこわ」2020年9月、No.15「年取りと正月の料理」2020年12月、No.9 「野菜のおかず春から夏」2021年3月	
論文	小笹歩望、飯田津喜美：研究ノート「地域食文化調査とその応用」三重短期大学生活科学科紀要、No.69、37-44（2021）	
その他	小野はるみ、飯田津喜美、若杉悠佑：(公財)三重県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会スポーツ栄養学班：「フェンシング ジュニア選手の食生活調査を振り返る」、スポーツ医・科学研究MIE第28巻、15-21（2021） 三十三総研「三十三トピックス2020年10月号・ヘルスケア」執筆	
学会等報告	飯田津喜美：第67回日本栄養改善学会学術総会（誌上開催）「伝統食材の食育への活用ースチームコンベクションオープンを用 いた加工・調理法の検討ー」、2020年9月、札幌市 要旨集p.142	
共同研究 助成研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析） ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査	
II 教育活動		
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、臨床栄養学実習（食栄、昼、 前期、1）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	バレーボール部顧問	
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任、食栄2年次生クラス担任（就活指導等）、オフィスマナー	
教育上の工夫	実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 実験実習が滞りなく進行するように担当教員の補佐を務めた。また、研究で培った実験手法等を学生にわかりやすく伝えるよ う努めた。 特別演習（食栄、昼、通年、4） 津市榑原地域の食文化調査研究では、食文化の掘起こしと地元食材の機能性等を活かしたレシピ開発を行いゼミ生と食の継承 につなげる方策を検討した。文献の読み解き方、研究のまとめ方、プレゼン指導等を通して実社会に必要な知識及び技術の習得 につなげるように努めた。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本生化学会、日本調理科学会、日本蛋白質科学会、日本熱測定学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター2020年度「榑原地域の魅力創出のための調査研究」 「地域連携カフェHONOBUNONO」の補助、2020年12月	
学外審議会委員等	三重県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会委員（2010年6月～現在）、日本栄養改善学会評議員（2018年11月～現在）、 一般社団法人（一社）日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員（2012年～現在）同三重県 副責任者（2014年～現在）、三重県水産物消費拡大促進協議会 三重県お魚料理コンクール審査員（2020年9月28日）	
学外講演会講師等	スポーツ栄養指導教室講師（分担）三重県立四日市工業高校、8月27日・11月26日	
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事	
他大学非常勤講師	放送大学2020年度第2学期面接授業「食の設計」、2021年1月9～10日	
3 一言アピール		
<p>タンパク質は、その構造や機能を調べることで様々な性質を知ることができます。現在、大阪府立大学との共同研究において、生体内 輸送蛋白質であるリボカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目 指し、本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。 また、三重県の伝統食材（シロミトリ豆等）を調査し、調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい 家庭料理・行事食の継承活動も行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：食材の調理科学的有効利用法の提案、食生活改善普及事業の実施と評価等）</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2020年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：服部 知美
I 研究活動			
1 研究課題：機能性表示食品に関する研究、20歳代男性に向けた「コンビニ昼食」購入方法提案に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	服部知美「鈴鹿市中学校ランチサービス事業」に対する管理栄養士としての10年間の取り組み 日本栄養士会雑誌 Vol.63 No5, 31-40 2020 査読有		
その他	服部知美、田原隼、中村美咲：大学生における栄養バランスを考慮した「コンビニめし」選択方法に関する研究、三重短期大学生活科学研究会紀要 No.69 2021		
学会等報告	服部知美、長村洋一：講演会「保健機能食品を利用してみよう」を通じて、保健機能食品による健康意識向上への心理的効果の検討。第67回日本栄養改善学会学術総会 誌上開催 2020.9 服部知美：「鈴鹿市中学校ランチサービス事業」に対する管理栄養士としての10年間の取り組み、令和2年度 三重県栄養士会 栄養指導事例、研究発表会、津、2021.3		
共同研究	助成研究		
II 教育活動			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 円滑な実習の進行のための前日当日の準備、及び運営のための実習費の管理に努めた。特に給食計画実務論実習Ⅰでは、自身の現場経験に基づく細部にわたる助言、指導を心がけた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 身近なコンビニエンスストアで販売されている昼食の特徴を調査し、栄養バランス、価格面を考慮した購入方法を検討することで、実生活に沿った栄養指導の一手法を学ぶ他、国体弁当のアスリートに向けた献立作成に取り組む等、栄養士として必要な技術面、研究を幅広く習得できるカリキュラとした。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「地域連携カフェ」2020.12		
学外審議会委員等	三重とこわか団体・三重とこわか大会津市実行委員会弁当専門部会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>健康の維持増進の要となる食生活について、地域の皆様が心から重要と感じ、食生活改善への行動変容へと導けるよう、講演会、論文等を通じて発信していきます。</p> <p>また、生活習慣病予防のための若年層への教育活動にも今後さらに力を注いでまいります。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2020年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：福安 智哉
I 研究活動			
1 研究課題：CF患者の腸内細菌叢に関して			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：食品学実験（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養教育論実習Ⅱ（生活、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、2年生）、食栄学生編入指導（2年生）		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 各種実験実習において、円滑な進行の為に事前準備、助言を行った。加えて、感染症対策の為に複数教室での授業の準備計画を行い、円滑な進行に努めた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 特別演習において、腸内細菌叢という近年注目されている点の基礎知識、応用、調査方法と幅広く講義を行い、どのような進路であっても役に立つようなカリキュラムとした。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 校外実習事前事後において、感染症対策の為に校内実習となった学生が発生したが、円滑に実習が行われる為に注力した。書類やメールでのやり取りが増加したため、基本的な送付方法等の指導を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本膳協学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「地域連携カフェHONOBUNO」の補助 2020年12月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	囊胞性線維症支援ネットワークに所属		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
腸内細菌叢というのはとても複雑で、様々な要因によって変化するのに加えて、疾患との関連が報告されています。栄養は腸内細菌叢を変化させる要因として代表的な物ですので、研究で得た知見を元に、より良い腸内細菌叢についてや、変え方等の指導をしております。			